

大阪府教育庁文化財調査事務所年報

20

2016年11月

大阪府教育委員会

はじめに

文化財調査事務所が実施している主な事業は、一つには府内遺跡の発掘調査並びに整理作業と報告書作成、そのための関係機関との調整であり、もう一つは資料の収蔵及び活用です。

発掘調査の成果は、整理作業を通じて内包されている情報が取り出され、報告書に記載されていきます。

一方、収蔵された資料については展示会や収蔵庫の特別公開等で広く公開するとともに、諸機関等への貸出、閲覧などに対応しています。

当事務所では、発掘調査、報告書の刊行や活用事業を通して文化財の保護に取り組んで参ります。今後とも皆様方の一層のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成28年11月

大阪府教育厅文化財保護課長

星住哲二

例　　言

1. 本書は大阪府教育庁文化財調査事務所年報第20冊である。
平成28年4月に「大阪府教育委員会事務局」が「大阪府教育庁」に組織改編されたことにより、表題を「大阪府教育庁文化財調査事務所年報」と改めた。
2. 本書には平成27年度に文化財調査事務所が実施した埋蔵文化財調査報告及び公開活動等の記録を記載している。
3. 埋蔵文化財調査概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。
なお、概要報告表題の調査番号は表3の調査番号に一致する。
 - 遺跡名（平成27年度調査番号）
 - (1) 所在地
 - (2) 調査の原因となった事業
 - (3) 調査担当者
4. 各項の執筆分担
 - ・「平成27年度における埋蔵文化財調査の概況」　　調査事業グループ
 - ・「主要発掘調査の概要報告」　　調査管理グループ
 - 文化財企画グループ
 - ・「資料紹介」　　調査管理グループ
 - ・「事業報告」　　調査管理グループ
5. 本書の編集は、調査管理グループが行った。
6. 本書は500部作成し、一部当たりの単価は246円である。

目 次

はじめに	
例言	
平成 27 年度における埋蔵文化財調査の概況	1
【主要発掘調査の概要報告】	
上垣内遺跡	(15001) 6
大和川今池遺跡	(15002・15028) 7
尺度遺跡・農林センター散布地	(15003・15016) 8
蔵重遺跡	(15007) 9
府中遺跡	(15008・15017) 10
太田川遺跡	(15011) 11
水越遺跡	(15012) 12
西福井遺跡	(15015) 13
遺跡外	(15022) 14
遺跡外	(15025) 15
高城遺跡	(15039) 16
安松田遺跡離接地	(15041) 19
【資料紹介】	
大園遺跡と渡来人	22
【事業報告】	
文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業	28
平成 27 年度収蔵資料	32
平成 27 年度調査・研究等の検討会	32
平成 27 年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧	32
平成 27 年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧	
実物資料・複製資料長期貸出	33
実物資料・複製資料短期貸出	34
資料撮影、写真・図面等貸出・掲載	35
資料閲覧	38
平成 28 年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	40

挿図目次

図1 平成27年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図	4	図31 東壁断面	15
図2 主要調査位置図	5	図32 高城遺跡位置図	16
図3 上垣内遺跡調査地位置図	6	図33 調査地位置図	16
図4 竪穴住居跡A-2（手前）と竪穴住居跡A-3（奥）	6	図34 高城遺跡出土土器（1/4）	17
図5 大和川今池遺跡調査地位置図	7	図35 安松田遺跡隣接地調査地位置図	19
図6 G区 古代の掘立柱建物（東から）	7	図36 調査地位置図	19
図7 D・E区 中世の濠（西から）	7	図37 地中レーダー探査状況	19
図8 F区 中世の掘立柱建物跡等（東から）	7	図38 第1調査区レーダー測定図（谷のラインの反応）	21
図9 尺度遺跡他調査地位置図	8	図39 第5調査区レーダー測定図（ピットの落込の反応）	21
図10 2区 溝201（南から）	8	図40 レーダー測定位置図	21
図11 4区 溝404（南東から）	8	図41 昭和50年度調査区平面図	22
図12 4区 竪穴住居401（南東から）	8	図42 井戸09 平面図・断面図	23
図13 蔵重遺跡調査地位置図	9	図43 大壁建物（南から）	24
図14 南区全景・手前は柱穴（東から）	9	図44 井戸09（南から）	24
図15 府中遺跡調査地位置図	10	図45 井戸09、落ち込み出土須恵器	24
図16 調査区割り図	10	図46 舷側板実測図	25
図17 A区全景（北から）	10	図47 筒形土製品・U字形板状土製品実測図	26
図18 太田川遺跡調査地位置図	11	図48 筒形土製品（図47-7）	27
図19 中世の耕作にともなう溝（南から）	11	図49 筒形土製品（図47-8）	27
図20 出土した須恵器甕	11	図50 筒形土製品（図47-9）	27
図21 水越遺跡調査地位置図	12	図51 U字形板状土製品（図47-10・11表面）	27
図22 古墳時代の水田跡（西から）	12	図52 U字形板状土製品（図47-10・11裏面）	27
図23 弥生時代の溝（北西から）	12	図53 中学生の職場体験	28
図24 西福井遺跡調査区位置図	13	図54 大学生のインターンシップ	28
図25 2区南半部全景（北から）	13	図55 上垣内遺跡の現地公開	28
図26 調査対象地の位置	14	図56 和泉池上文化財収蔵庫の特別公開	28
図27 調査区の位置	14	図57 高石市立図書館「大園遺跡を語る」展	29
図28 調査区①の調査状況	14	図58 「大園遺跡を語る」講演会	29
図29 調査区位置図	15	図59 府立弥生文化博物館弥生プラザ	29
図30 土層断面模式図	15	「西を向くムラ、東を向くムラ」	

表 目 次

表1 原因別調査面積・件数一覧	1	表5 実物資料・複製資料長期貸出	33
表2 地域別調査面積・件数一覧	1	表6 実物資料・複製資料短期貸出	34
表3 平成27年度調査箇所一覧	3	表7 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載	35
表4 平成27年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧	30	表8 資料閲覧	38

平成27年度における埋蔵文化財調査の概況

調査件数と面積

大阪府教育委員会が平成27年度に実施した調査件数は、発掘調査が10件、確認調査が4件、立会調査が18件、試掘調査13件の合計45件であった。

なお、調査面積の算出が困難な立会調査を除くと、発掘調査、試掘調査、確認調査の調査面積の合計は4,885m²である。調査件数については前年度（平成26年度）と同数となり横ばいであるが、調査面積は前年度比52%でほぼ半減となっている。

調査件数については、年度によって多寡がみられるものの、ここ数年は減少傾向である。また調査面積については、平成25年度に一旦は増加に転じたが、過去10年間の推移をみると減少傾向が顕著であり、平成27年度については、平成18年度比で約16%となっている。道路建設や建築における新規事業等の減少が、調査件数の減少や調査の小規模化傾向の要因と考えられる。

表1に示したとおり、調査原因別で面積の推移をみると、平成27年度については道路事業においては前年度より増加しているものの、住宅および農林事業では大きく減少しているほか、その他については、警察施設関連の事業については大きく減少している。

次に表2に示した地域別における状況をみると、泉北地域、北河内地域において件数、面積ともに増加している。これは道路事業に伴う発掘調査を実施したためである。一方で大阪市域、南河内、中河内、豊能の各地域では、件数は同数ないしは増加してい

るが、面積が大きく減少している。これらは小規模な調査、ないしは立会の増加に伴うものである。

主な調査成果

平成27年度の調査成果については、6頁以降において主な12の調査成果を掲載している。ここでは、これらのうち時代別に調査成果を概観する。

縄文時代

縄文時代の遺構を検出した調査はないものの、茨木市西福井遺跡において、中世の遺物包含層から中期の縄文土器と磨製石斧片が出土しているほか、八尾市水越遺跡では包含層から晩期の船橋式、長原式に属する突帯文土器（深鉢）が出土している。

弥生時代

八尾市水越遺跡においては、弥生時代の溝を検出している。また本府教育委員会の調査協力により実施された高石市大園遺跡では前期～後期にかけての土坑などの遺構が検出されており、壺、甕などの土器、石鎌、石包丁などの石器が出土している。

古墳時代

寝屋川市上垣内遺跡では、後期に属する竪穴住居跡や掘立柱建物跡が検出された。枚方丘陵の縁辺部における当該期集落の様相がわかる調査事例である。

八尾市太田川遺跡では、後期に属する溝が検出されており、また同市水越遺跡では後期に属する小区画水田を計6枚検出している。調査地の立地から、生駒山地から派生する扇状地間の谷地形内に形成された水田であり、各水田区画は水口も認められた。当遺跡における当該期の土地利用のあり方を示す貴

表1 原因別調査面積・件数一覧

原因	18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数														
住宅	14,730	15	11,169	10	488	8	1,799	9	6,454	14	6,227	12	124	9	727	10	1,800	5	108	8
農林	1,970	4	1,564	5	672	3	587	4	1,754	4	1,254	3	1,741	3	1,995	4	959	4	264	2
道路	7,468	22	11,422	24	10,468	17	5,629	21	4,968	27	5,255	20	6,404	25	6,988	22	2,138	8	3,748	17
下水	2,181	5	180	3	7,787	5	6,417	8	1,011	16	1,650	9	16	1	8	1	0	1	118	2
河川	3,883	2	204	2	10	2	0	1	36	4	0	1	48	1	0	0	0	2	0	2
学校	24	8	12	1	140	1	361	5	0	1	318	2	78	3	760	4	10	2	50	1
その他	1,269	12	2,788	15	298	9	3,189	16	563	30	888	33	2,120	43	4,155	23	4,535	23	597	13
合計	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96	15,592	80	10,531	85	14,633	64	9,442	45	4,885	45

*面積はm²である

表2 地域別調査面積・件数一覧

地域	18年度		19年度		20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数														
大阪市	120	4	0	0	96	2	30	2	85	4	3,209	10	98	3	414	5	2,621	3	22	3
泉南	4,794	8	4,069	8	438	5	2,100	6	1,534	6	449	6	81	8	865	4	0	4	240	2
泉北	465	7	6,519	8	6,857	10	3,822	7	4,444	9	1,552	7	1,166	6	1,139	5	0	2	2,757	6
南河内	4,942	10	6,534	9	9,660	11	7,945	10	2,620	12	1,691	9	3,985	14	7,367	11	1,742	9	653	11
中河内	1,225	16	2,104	11	322	3	190	14	1,212	28	2,224	13	1,091	21	686	18	317	9	141	9
北河内	13,252	10	4,940	10	1,995	9	3,619	13	3,616	21	2,086	12	1,391	9	116	5	559	5	800	4
三島	6,677	12	2,969	10	495	5	89	6	1,205	11	2,336	20	2,673	22	712	15	867	10	224	5
豊能	50	1	204	4	0	0	187	6	70	5	2,045	3	46	2	3,334	1	3,336	3	48	5
合計	31,525	68	27,339	60	19,863	45	17,982	64	14,786	96	15,592	80	10,531	85	14,633	64	9,442	45	4,885	45

*面積はm²である

重な調査事例と言える。

羽曳野市尺度遺跡では、後期に属する堅穴住居跡が検出された。さらに後期に属する南北溝が検出された。羽曳野丘陵から派生する微高地上に開削されたもので、その機能や集落との関連が注目される。

古代

松原市大和川今池遺跡では、平成26年度調査で確認された平安時代の屋敷地の西半部を確認し、掘立柱建物跡が検出されている。

中世

松原市大和川今池遺跡では、南北方向の溝や掘立柱建物跡、井戸などを検出しており、濠に囲まれた屋敷地の一部が確認された。

また茨木市西福井遺跡では耕作に伴う溝や柱穴列が、また和泉市府中遺跡では、溝や土坑が検出されている。なお吹田市高城遺跡では昨年度の水道管布設工事の立会において中世に属する土器が検出されているため、本紙において報告を行っている。

近世

和泉市府中遺跡では近世に属する溝が検出されている。この溝を境に耕作地が段差をなしているため、近世における耕作地造成の一端を示すとみられる。

確認調査等

羽曳野市尺度遺跡(農林事業)、和泉市府中遺跡(道路事業)においては、本調査に先立って遺跡内容を把握するための確認調査を行っている。

この他、泉佐野市安松田遺跡隣接地において、範

囲確認のための試掘調査を実施している。これは過去に安松田遺跡の調査において発見された、12世紀後半の東大寺再建時に用いられた瓦や、瓦窯の壁体、粘土採掘坑などの遺構、遺物に関連して、瓦窯跡等の遺構の発見を目的として行ったものである(文化庁国庫補助事業)。調査の結果、谷地形の存在が確認されたものの、瓦窯そのものは発見されなかった。今後の追加調査が待たれるところである。

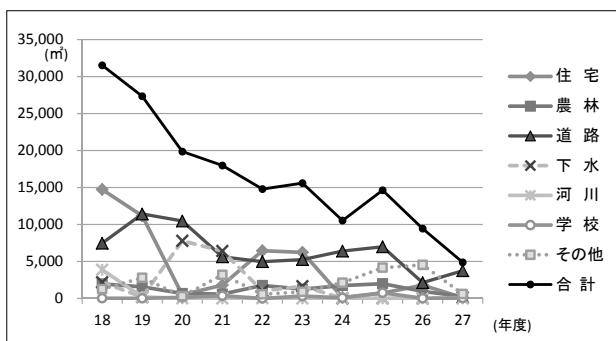
大阪市北区中津三丁目所在遺跡B地点は、警察施設の建設に先立って行われた試掘調査において、あらたに発見された遺跡である。中世の遺物包含層を確認している。

発掘調査現場の公開等と遺物整理事業

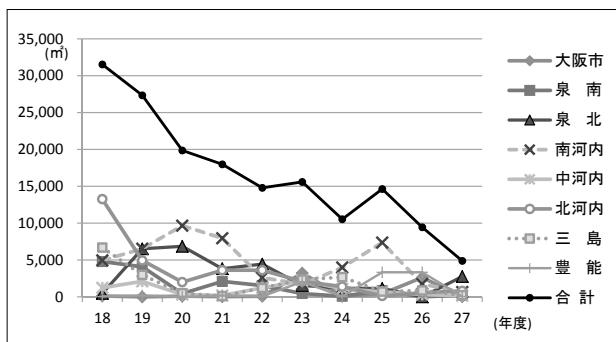
発掘調査現場の公開は、寝屋川市上垣内遺跡において実施し、100名以上の参加を得た。

発掘調査地が所在する市町村等と連携し、速報性を重視した企画展や講演会なども実施した。平成27年度は、大阪狭山市教育委員会、河内長野市教育委員会、大阪府立狭山池博物館との共催で、同博物館および、河内長野市立ふるさと歴史学習館において、平成26年度の調査成果を踏まえた南河内地域の縄文時代遺跡について、また上記の大和川今池遺跡の調査成果について展示、講演を行っている。また高石市教育委員会と連携し、上記の大園遺跡の調査成果に関する展示、講演会を、高石市立図書館で開催した。さらには茨木市立文化財資料館との共催により、平成26年度に報告書が刊行された安威

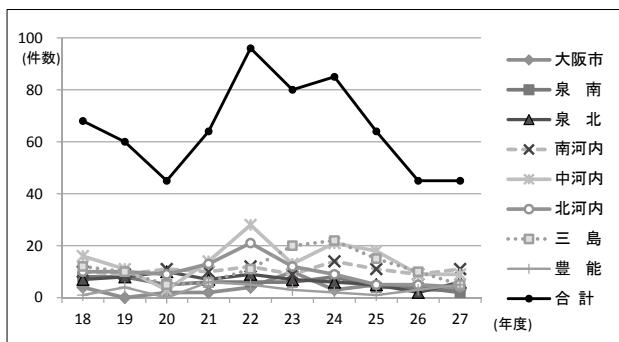
グラフ1 原因別調査面積



グラフ3 地域別調査面積



グラフ4 地域別調査件数



城跡を中心に安威川流域の古墳時代に関する展示、講演会を実施した。

この他、発掘調査については、速報的に本課のホームページに逐次掲載した。

遺物整理事業は、9件実施し、調査報告書7冊を刊行している。

(岡田 賢)

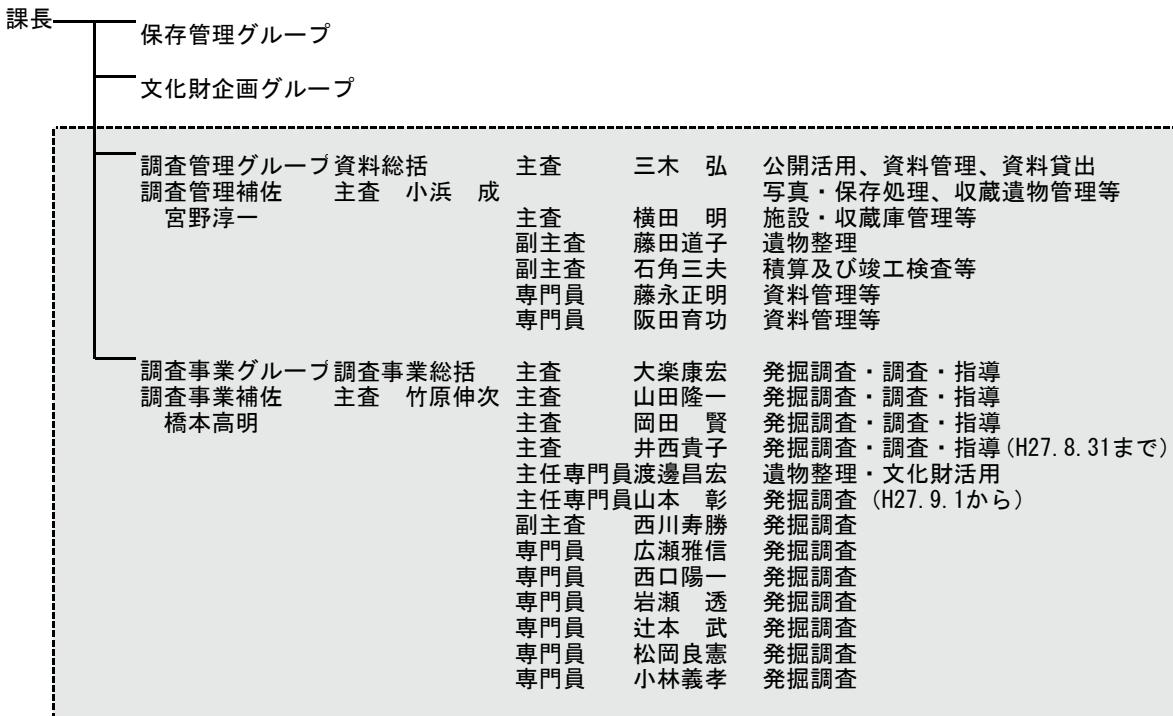
表3 平成27年度調査箇所一覧（1）

*太字は本書に概要報告が記載されているもの

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積 (m ²)	担当者	事業者	事業名
15001	上垣内遺跡	寝屋川市明和二丁目	発掘	平成27年4月6日	平成27年7月10日	800	西川 辻本	交通道路室 道路整備課	都市計画道路梅が丘高柳線道路整備事業
15002	大和川今池遺跡	松原市我堂五、六丁目	発掘	平成27年4月1日	平成27年5月29日	220	山田	交通道路室 道路整備課	都市計画道路堺港大堀線整備事業
15003	尺度遺跡・農林センター散布地	羽曳野市藏之内	確認	平成27年4月20日	平成27年5月11日	40	広瀬	動物愛護畜産課	動物愛護管理センター（仮称）整備事業
15004	大園遺跡	高石市綾園	発掘	平成27年5月7日	平成27年6月30日	335	松岡 西口	民間	—
15005	池島・福万寺遺跡	東大阪市池島町八尾市福万寺町	立会	平成27年4月21日	平成27年4月28日	—	大栗	寝屋川水系改修工事 営所	一級河川恩智川治水緑地池床掘削工事
15006	信太干塚古墳群	和泉市伯太町四丁目	立会	平成27年5月19日	平成27年5月19日	—	竹原	近畿財務局	大阪航空局宅舍跡地地下埋設物調査
15007	藏重遺跡	松原市三宅東三丁目	発掘	平成27年7月15日	平成27年8月25日	50	西川	教育委員会 施設財務課	大阪府立松原高等学校下水道放流切替工事
15008	府中遺跡	和泉市府中町五丁目	確認	平成27年7月1日	平成27年8月11日	188	広瀬 辻本 岡田	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南海線街路事業
15009	讚良郡条里遺跡・長保寺遺跡	寝屋川市昭栄町	立会	平成27年7月10日	平成27年7月10日	—	大栗	大阪広域水道企業団 東部水道事業所	地下埋設物調査（守口北守口東連絡・寝屋川市）
15010	別井遺跡	富田林市別井	立会	平成27年9月8日	平成27年9月8日	—	広瀬	交通道路室 道路整備課	一般府道上河内富田林線歩道設置工事
15011	太田川遺跡	八尾市大竹一丁目	発掘	平成27年10月1日	平成27年11月9日	52	広瀬 小林	下水道事業課	枚岡河内南幹線（二）（第3工区）下水管渠渠造工事
15012	水越遺跡	八尾市服部川一丁目	発掘	平成28年1月11日	平成28年2月29日	66	広瀬 小林	下水道事業課	枚岡河内南幹線（二）（第2工区）下水管渠渠造工事
15013	甲田遺跡	富田林市甲田	確認	平成27年9月28日	平成27年9月28日	6	山田	交通道路室 道路整備課	一般国道（旧）170号線歩道設置工事
15014	竹内街道	羽曳野市飛鳥	立会	平成27年8月21日	平成27年8月21日	—	山田	河川室 河川整備課	一級河川飛鳥川改修事業
15015	西福井遺跡	茨木市西福井三丁目～東福井二丁目	発掘	平成27年11月2日	平成27年12月28日	182	西口 辻本	交通道路室 道路整備課	一般府道余野茨木線歩道整備工事
15016	尺度遺跡・農林センター散布地	羽曳野市藏之内	発掘	平成27年11月12日	平成27年12月25日	224	山田 広瀬 小林	動物愛護畜産課	動物愛護管理センター（仮称）整備事業
15017	府中遺跡	和泉市府中町五丁目	発掘	平成27年12月1日	平成28年度継続	2200	岩瀬 松岡 西川	交通道路室 道路整備課	都市計画道路大阪岸和田南海線街路築造事業
15018	遺跡外	吹田市吹東町・南正雀一丁目	試掘	平成27年11月26日	平成27年11月27日	40	岡田 山本	交通道路室 道路整備課	都市計画道路十三高槻線道路改良事業
15019	遺跡外	東大阪市近江堂三丁目	試掘	平成27年11月9日	平成27年11月9日	18	松岡	大阪府住宅供給公社	長瀬・B団地建替事業
15020	遺跡外	東大阪市長瀬町一丁目	試掘	平成27年11月10日	平成27年11月10日	5	松岡	大阪府住宅供給公社	布施・B団地集約化事業
15021	遺跡外	箕面市箕面四丁目	試掘	平成27年11月16日	平成27年11月17日	24	岩瀬	大阪府住宅供給公社	箕面・B・C団地建替事業
15022	遺跡外	池田市井口堂二丁目	試掘	平成27年11月19日	平成27年11月19日	12	小林	大阪府住宅供給公社	井口堂・B団地建替事業
15023	遺跡外	池田市豊島北一丁目	試掘	平成27年11月20日	平成27年11月20日	12	小林	大阪府住宅供給公社	石橋西団地建替事業
15024	遺跡外	堺市北区新金岡二丁	試掘	平成27年12月3日	平成27年12月4日	32	西川	大阪府住宅供給公社	金岡東団地・金岡東B団地建替事業
15025	遺跡外	大阪市北区	試掘	平成27年7月6日	平成27年7月6日	6	井西	大阪府警察本部 施設課	大阪府警察施設改革工事
15026	遺跡外	大阪市淀川区十三本町三丁目	試掘	平成27年7月7日	平成27年7月7日	4	井西	大阪府警察本部 施設課	大阪府警察本部第二方面機動警ら隊 廈改築工事
15027	遺跡外	大阪市城東区関目六丁目	試掘	平成27年7月14日	平成27年7月15日	12	井西	大阪府警察本部 施設課	大阪府警察大阪市城東区2単身寮改築工事
15028	大和川今池遺跡	松原市我堂五・六丁目	発掘	平成28年1月5日	平成28年1月29日	110	山田	交通道路室 道路整備課	都市計画道路堺港大堀線道路整備事業

表3 平成27年度調査箇所一覧（2）

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積 (m ²)	担当者	事業者	事業名
15029	遺跡外	吹田市南正雀一丁目	試掘	平成28年3月2日	平成28年3月3日	32	岡田 山本	交通道路室 道路整備課	都市計画道路十三高槻線道路改良事業
15030	和泉遺跡	東大阪市布市三丁目	立会	平成28年1月12日	平成28年1月12日	—	岡田	大阪広域水道企業 団東部水道事業所	配水管路廃止管撤去工事
15031	遺跡外	富田林市本町	立会	平成27年9月15日	平成27年9月15日	—	山田	大阪府警本部 施設課	富田林市本町交番建替
15032	遺跡外	太子町山田	立会	平成28年1月15日	平成28年1月15日	—	辻本	交通道路室 道路環境課	国道166号線歩道設置工事
15033	遺跡外	池田市伏尾	立会	平成28年1月25日	平成28年1月25日	—	辻本	交通道路室 道路整備課	一般府道豊能池田線整備事業
15034	西大路遺跡	岸和田市西大路町	立会	平成28年1月28日	平成28年1月28日	—	西口	交通道路室 道路環境課	主要地方道大阪と泉南線歩道設置工事
15035	東郷遺跡	八尾市桜ヶ丘二丁目	立会	平成28年2月4日	平成28年2月4日	—	岡田	交通道路室 道路環境課	一般府道八尾道明寺線照明灯設置工事
15036	暗峠越奈良街道	東大阪市菱江東二丁目	立会	平成28年2月5日	平成28年2月5日	—	岡田	大阪広域水道企業 団 東部水道事業所	配水管路休止管管内充填工事
15037	松ヶ本遺跡	茨木市松ヶ本町・下穂積一 丁目	立会	平成28年2月17日	平成28年2月19日	—	岡田	大阪広域水道企業 団 北部水道事業所	配水管布設工事（穂積ループ・茨木市）3工区
15038	美園遺跡	八尾市佐堂町二丁目	立会	平成28年2月16日	平成28年2月18日	—	岡田	交通道路室 道路環境課	（旧）大阪中央環状線交差点改良工事
15039	高城遺跡	吹田市昭和町	立会	平成28年3月28日	平成28年3月28日	—	岡田	大阪広域水道企業 団 北部水道事業所	配水管布設工事（豊中正雀連絡管・ 吹田市）1工区
15040	川尻遺跡	豊能町川尻	立会	平成28年2月24日	平成28年3月23日	—	辻本 岡田	交通道路室 道路整備課	一般国道423号道路改良工事
15041	安松田遺跡隣接 地	泉佐野市新安松三丁目	試掘	平成28年3月7日	平成28年3月11日	240	竹原	教育委員会 文化財保護課	国庫補助事業（範囲確認調査）
15042	西諸福遺跡	大東市諸福七丁目	立会	平成28年3月14日	平成28年3月25日	—	山本 岡田	交通道路室 道路 整備課	都市計画道路大阪住道線拡幅事業
15043	遺跡外	堺市北区金岡	試掘	平成28年3月7日	平成28年3月7日	2	大堀	住宅経営室 施設保全課	府営堺白鷺東住宅耐震改修事業
15044	岡遺跡	松原市岡二丁目	確認	平成28年3月28日	平成28年3月28日	3	山田	住宅経営室 住宅整備課	府営住宅用地活用推進事業
15045	上の山遺跡	交野市私部三丁目～枚方市 茄子作四丁目	立会	平成28年3月4日	平成28年3月4日	—	竹原	大阪広域水道企業 団 東部水道事業所	水道管分岐改良事業



【文化財調査事務所】

TEL 072(291)7401

図1 平成27年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図



図2 主要調査位置図

かみがいと 上垣内遺跡（15001）

- (1) 寝屋川市明和二丁目
- (2) 都市計画道路梅が丘高柳線道路整備事業
- (3) 西川寿勝・辻本武

はじめに

上垣内遺跡は枚方台地の辺縁部に位置する（図3）。周辺には、古墳時代前期の忍岡古墳、同中期～後期の太秦古墳群、飛鳥時代～奈良時代の石の宝殿古墳、高宮廃寺跡、太秦廃寺跡などの遺跡がある。また遺跡の東側を東高野街道が南北に貫き、古代から北河内と南山城を結ぶ交通路としても栄えた。

今回の調査地から谷を一つはさんだ北側の丘陵上では第二京阪道路建設の際に、太秦古墳群・太秦遺跡が調査され、小型方墳群や掘立柱建物などが検出されている。

調査成果

今回の調査区は、南北長さ約10m、東西幅約20mのA区と、南北長さ約25m、東西幅約20mのB区に分かれる。なおA区の東側は平成26年度に約300m²を発掘調査して竪穴住居跡と掘立柱建物跡の一部を検出しており、今回はこれらの遺構群を再確認する調査も併せて行ない、遺構の全容を明らかにした。

A区は中世以降の耕作などで北側が削平され、遺構の上面は良好に残されていないものの、竪穴住居跡3棟と掘立柱建物跡1棟が残されていた。

A区西端にある竪穴住居跡A-1は大きさ東西約3.5m、南北3m以上で、その南半部は後世に削られて残っていなかった。住居は方形に10cm以上掘り下げられ、四周に壁溝を巡らせる。カマドの痕跡や柱穴は明瞭に残っていない。

A区南端にある竪穴住居跡A-2は大きさ東西約6.2m、南北5m以上で、やはり南半部は調査区外に続くが後世に削られて残っていないようである。住居は方形に20cm以上掘り下げられ、四周に壁溝を巡らせる。北壁中央にカマドの痕跡が残り、4本柱の柱穴だったと推定する。6世紀後半の須恵器杯・土師器甕などが発見された（図4）。

昨年度調査で発見された竪穴住居跡A-3は大きさ東西約5.0m、南北3.6mを測る。住居は方形に10cm以上掘り下げられ、四周に壁溝を巡らせる。北壁にカマドの痕跡が残り、4本柱の柱穴だったと推定する。土師器高杯などが発見された。

掘立柱建物跡A-1は竪穴住居跡A-2のすぐ西側で発見された。東西8.0m（5間）×南北4.8m（3間）を測る大型の東西棟である。この遺構の上面か

ら奈良時代の須恵器片が発見されている。

その他、発見された遺物に、縄文時代の打製石鎌、飛鳥時代と奈良時代の須恵器杯、平安時代の黒色土器、中国製の白磁碗などがある。

B区は遺構面の大半が後世の建物造営などで削平され、良好に残されていない。B区南西隅で掘立柱建物跡の一部が発見されたが、時期や規模は不明である。

おわりに

今回の調査によって、古墳時代後期（6世紀後半ころ）の集落の一端が解明された。周辺には、太秦・秦などの地名が残り、渡来系氏族との関連が指摘されている。今回の調査成果では、直接に渡来系氏族との関連をうかがわせる遺物は見つかっていないものの、今後の発掘調査によって、この地に暮らした古代の人々の営みが解明されることが期待される。

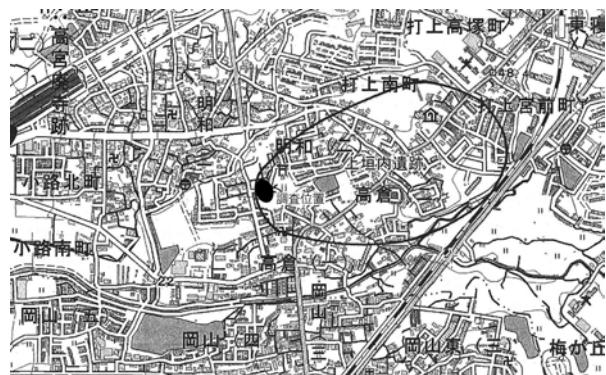


図3 上垣内遺跡調査地位置図



図4 竪穴住居跡A-2（手前）と竪穴住居跡A-3（奥）

やまと がわいまいけ 大和川今池遺跡 (15002・15028)

- (1) 松原市天美我堂六丁目
(2) 都市計画道路堺港大堀線整備事業
(3) 山田隆一

はじめに

調査は府道拡幅工事に伴うもので、道路に沿う延長126mを対象とした。前年度に引き続きその中央部（G区）と西半部（D・E・F区）を調査した。

調査成果

G区 本区は前年度に確認された平安時代屋敷地内の西半部である。掘立柱建物（図6）の3間×3間分を確認した。建物は南にのび、規模は東西5.0m×南北5.6m以上の南北棟と考えられる。側柱の柱掘りかたの規模は70～90cm四方の隅丸方形であり、断面で確認できる柱痕跡は直径25～30cmである。

D～F区 中世の遺構と遺物が多数確認された。中央部で南北溝（図7）が確認された。ガス管と壁面の崩壊を避けるため、部分的な調査にとどまるが、規模は復元幅5.5m、深さ1.0mと大型である。そして、南北溝より西側で井戸・土坑や柱穴等の中世遺構が密集する状況も確認できた。南北溝は、屋敷を

囲む防御性を備えた濠と考えられる。

図8はF区の遺構確認状況である。多くの柱穴が重複しており、掘立柱建物2棟が復元できた。いずれの建物も北と東にのびる縦柱建物である。なおF区では、整地がなされており、整地土から多量の古代末～中世初頭の瓦が出土した。周辺に寺院が存在したことが想定できるようになった。

まとめ

前年度には、東半部で平安時代前半の屋敷地を確認した。今回のG区掘立柱建物は、その屋敷地内でも最も大型である。そして今回の西半部調査では、中世の南北溝とその西側に居住を示す井戸や多数の柱穴等の遺構が確認された。南北溝は、中世の屋敷地を囲む濠と考えられ、屋敷は防御性を備えた居館と想定できる。本地域での土地開発に関わるであろう古代・中世集落として、また近世我堂村の成立を考える上でも重要な調査成果となった。



図5 大和川今池遺跡調査地位置図



図7 D・E区 中世の濠（西から）



図6 G区 古代の掘立柱建物（東から）

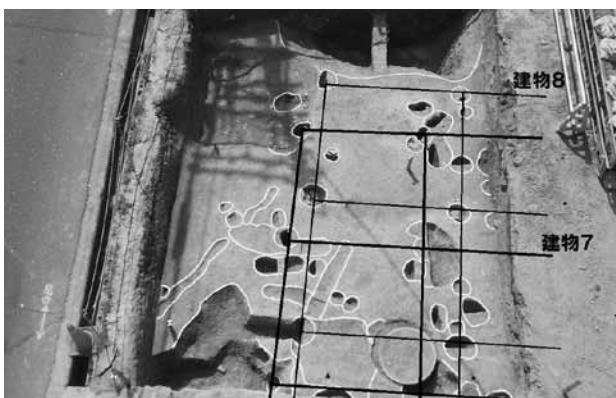


図8 F区 中世の掘立柱建物跡等（東から）

尺度遺跡・農林センター散布地（15003・15016）

- (1) 羽曳野市蔵之内
- (2) 動物愛護管理センター（仮称）整備事業
- (3) 山田隆一・広瀬雅信・小林義孝

はじめに

尺度遺跡・農林センター散布地は、西半の羽曳野丘陵から張り出した微高地部と東半の低地部からなる。低地部では、南阪奈道路建設に伴う調査で古墳時代初頭の首長居館等が確認されている。

今回、微高地部において動物愛護管理センター（仮称）の進入路部分の調査を行った。現地は西に向かって低くなる4段に造成された田畠で、東から1～4区とした。調査区は幅1m、全長225mである。

調査成果

弥生時代後期と古墳時代前期の谷地形の他、古墳時代後期の遺構がまとまって確認できた。

1区 弥生時代後期の溝、古墳時代前期の谷地形、同後期の落込み等が確認された。

2区 古墳時代後期の溝、弥生時代後期の谷地形等が確認された。図10は扇状地に掘削された6世紀後半の溝201である。ほぼ南北方向の溝で、規模は

幅2.0m、深さ1.9mと大型で、断面形は逆台形である。下半の埋土は流水堆積で、最終的には人為的に埋められたようである。

4区 古墳時代後期の溝、竪穴住居、柱穴等を確認した。図11は6世紀後半の溝404である。断面逆台形に掘削された南北方向の溝で、規模は幅2.0m、深さ0.9mである。図12は6世紀後半の竪穴住居401である。検出長は東西約4.5mで、隅丸方形を呈す。住居内は貼床を行って周溝を巡らせる。4本柱の内の2本を確認した。写真奥と手前左の柱穴で、柱の直径は20cm程度である。

まとめ

今回の大きな調査成果は、これまで状況が不明であった微高地部で、古墳時代後期の遺構がまとまって確認できたことである。丘陵を横断する南北溝の機能や集落の性格については、今後の周辺での調査結果を待つ判断したい。



図9 尺度遺跡他調査地位置図



図10 2区 溝201（南から）



図11 4区 溝404（南東から）

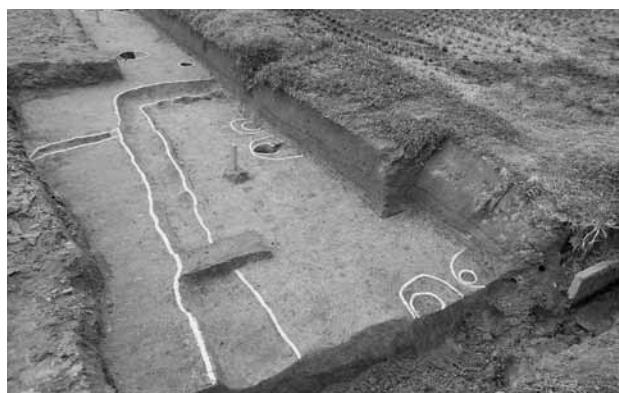


図12 4区 竪穴住居401（南東から）

くらしげ 蔵重遺跡（15007）

- (1) 松原市三宅東三丁目
- (2) 大阪府立松原高等学校下水道放流切替工事
- (3) 西川寿勝

はじめに

蔵重遺跡は松原市北部の大池の北側に位置する（図13）。府立松原高等学校周辺が蔵重遺跡、その西方に隣接する市民グランド周辺に蔵重西遺跡がある。いずれも奈良時代から中世にかけての集落遺跡で、発掘調査では掘立柱建物群やそれに伴う溝跡などが発見されている。両遺跡の間にはかつて十郎ヶ池があり、池を挟んで2つの遺跡に分かれている。本来は一体となる集落だったのかもしれない。

これまでの調査で発見された建物跡は、大型で整然と配置されている。また、古代の瓦の出土から、瓦ぶき建物の存在も指摘できる。奈良時代の硯も出土しており、奈良時代の荘園領主の居館、あるいは「三宅」の地名から官衙や正倉がおかれていた可能性もある。

調査成果

今回の調査区は、府立高校内の西端にある二つの汚水槽の四周を口字形に囲む排水管の設置に伴うものである。調査区は東西に長く、幅は約1mである。東区・西区・南区・北区とした。

南区は東西約35mで、厚い盛土に覆われ、地表下約1mに地山面がある。中央で柱穴を一基確認した。柱穴は東西約0.8m、深さ0.6mの隅丸方形で、北側は調査区外に続く。遺物は含まれなかつた。この柱穴の西側で東西溝の北肩を確認した。埋土は暗褐色粘土で近世後期の肥前磁器や瓦などが含まれる。

西区・東区は大半が松原高等学校造営時に地山面のかく乱をうけ、遺構・遺物はなかつた。

北区は約50mで西端から中央にかけて、地山面が良好に残っていた。東側の大半はかく乱を受けていた。いずれからも遺構・遺物は検出されなかつた。

その他、南区から約50m南側で水路の切り替え工事が行われることとなつたので、立会調査を実施した。2m×2mほどの工事区は地山面が良好に残されていたものの遺構・遺物は発見できなかつた。

遺物はおもに北区の西側に残された旧水田床土に含まれていた。中世の土師質土器・瓦器片とともに、奈良時代の須恵器小片や瓦片が少量あつた。

おわりに

今回の調査では顕著な遺構が確認されず、遺構の広がりはよくわからなかつた。

一部は松原高等学校建設時などに、遺構面がかく

乱されている可能性はあるものの、地山面が良好に残されている部分も多く、今後の発掘調査によって、この地に暮らした古代の人々の営みが解明されるかもしれない。



図13 蔵重遺跡調査地位置図



図14 南区全景・手前は柱穴（東から）

府中遺跡 (15008・15017)

- (1) 和泉市府中町五丁目
- (2) 都市計画道路大阪岸和田南海線街路事業
- (3) 西川寿勝・松岡良憲・岩瀬 透

はじめに

府中遺跡は、大阪府和泉市府中町に所在し、東西約1km、南北約1.2kmの規模を有する、その範囲内に和泉国府跡や和泉寺跡推定地を含む遺跡である。

従来から弥生時代～古墳時代の集落遺跡とされてきた。

都市計画道路大阪岸和田南海線の計画路線が、遺跡の東端部を南北に縦断することが判明したため、その建設に伴って平成17年度から埋蔵文化財調査を実施している。

これまでの調査では、弥生時代～古墳時代の集落に関わる遺構・遺物、奈良時代の遺構・遺物、中世の集落に関わる遺構・遺物などが検出されている。

平成27年度は、平成28年度までの債務負担事業として平成27年12月1日より実施している

調査成果

今回の調査地は、従前の調査地の北方に位置する部分で、全長約100m、幅約20mの道路建設範囲を南北に2分割したものと西側の工事用道路部分の3か所を対象に実施した。平成27年度は北東半部のA区の調査を実施した。

調査地の現状は、ほぼ東南東から西北西方向の3段に造成された畠地で、最も西北西側の下段は中段の地山を削って基盤を形成しており、最も東南東側の上段は基盤層の上に土を盛り上げて段を形成している。この段が形成された時期は、盛土内に含まれた遺物から近世と考えられる。

下段は地山を削って平坦地を形成しており、その上には床土と旧耕土が約25cmの層厚で認められ、

下段と約20cmの段差が認められる中段でも同様に、床土と旧耕土が約25cmの層厚で認められた。上段では旧耕土と床土の下に5YR5/6橙色粘質シルトの堆積が約20cmの層厚で認められ、これは中世の包含層である。下段には遺構が認められなかったが、中段と上段では地山直上で遺構が多数検出された。

検出された遺構には、中段と下段の境目に段差に沿って走る溝があり、これは出土した遺物から近世に比定されるものである。また、この溝にはほぼ直交する溝や土坑が多数認められた。

これらの遺構は切り合い関係などから、若干の時期差があることが覗われるが、出土遺物からみれば概ね中世に比定されるものである。

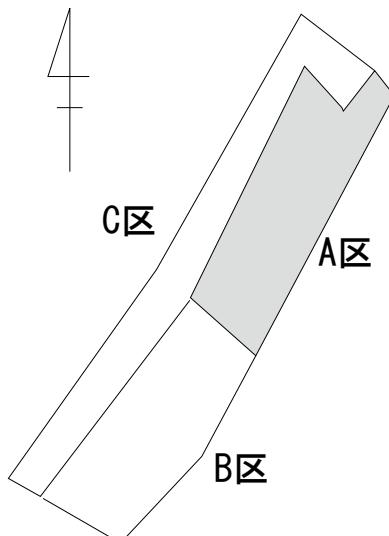


図16 調査区区割り図



図15 府中遺跡調査地位置図



図17 A区全景 (北から)

おおたがわ 太田川遺跡（15011）

- (1) 八尾市大竹一丁目
- (2) 枚岡河内南幹線（二）（第3工区）下水管渠築造工事
- (3) 広瀬雅信・小林義孝

はじめに

太田川遺跡は、高安山の西麓の緩やかに傾斜する扇状地の先端部に所在する遺跡である。これまで小規模な調査が多くの地点で実施されているが、その全貌は明らかではない。

遺跡の推定範囲内は起伏に富んでおり、高安山に刻まれた東西方向の谷地形がいくつも走り、地点ごとで遺跡のあり方に大きなちがいがある。

今回は、幹線下水道の整備事業にともない、工事のための立坑の建設に先立って調査を実施した。調査面積は約52m²である。鋼矢板で囲まれた限定した範囲である。

調査区の立地

調査地点は東から西に向かう大きな谷地形のなかにあたっている。

土層を一層ずつ重機、人力によって掘削し、まったく遺物の出土がみられなくなる現地表面下約3.5mまで確認した。

調査区全体が、近年施された厚さ約1.2mの盛土で覆われている。盛土層を除去すると近世以降の耕作面があらわされた。

検出された遺構

遺構面は、近世以降の耕作面から約20cm下方、T.P.+13.6m前後で検出された。

調査区の南部で古墳時代後期に比定される溝が確認された。幅60~80cm、深さ約20cmを測り、2.4m前後の長さで検出した。若干屈曲しながら走る。この溝の北端部付近から須恵器甕の上半部の破片が出土した。6世紀のものである。

同一の遺構面の北部地区は中世の方向をそろえる東西方向の耕作溝が多数遺存していた。方位は東でやや北に振る。

下層の確認

さらに古墳時代後期の遺構面下約2mまで掘削し、土層の状況などを確認した。基本的に流水堆積による砂、シルト、粘土で構成されていた。遺構・遺物は検出されなかった。

まとめ

今回の調査において、古墳時代後期の遺構面を中世に削平して耕作地としたことが判明した。太田川遺跡における谷地形の中の土地利用の一端を把握することができたことが大きな成果である。

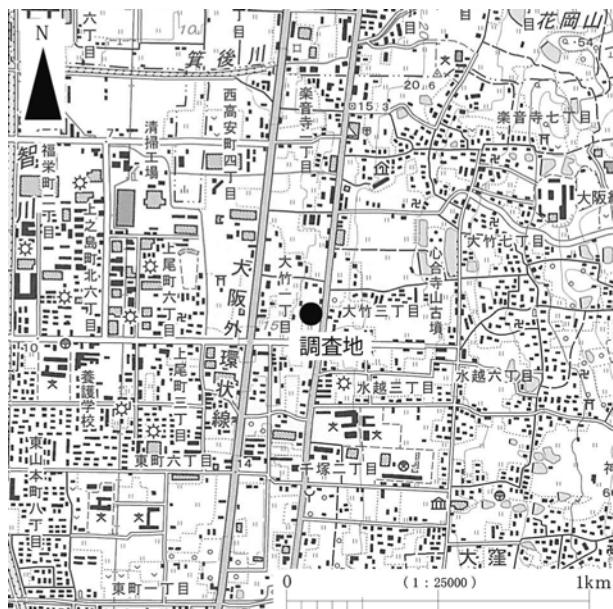


図18 太田川遺跡調査地位置図

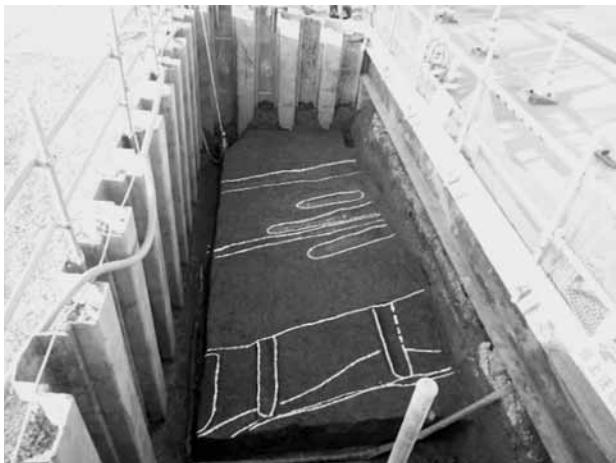


図19 中世の耕作にともなう溝（南から）



図20 出土した須恵器甕

みずこし 水越遺跡 (15012)

- (1) 八尾市服部川一丁目
- (2) 枚岡河内南幹線（二）（第2工区）下水管渠築造工事
- (3) 広瀬雅信・小林義孝

はじめに

今回の調査は、幹線下水道の整備事業にともない、工事用の立坑の建設に先立って実施した。調査区は鋼矢板で囲まれており、面積は約66m²である。

水越遺跡は、高安山の西麓の緩やかに斜面する扇状地の最先端に所在する遺跡である。早くから縄文後期土器が出土したことで著名であり、最近の調査では弥生時代の集落や古墳時代の墓域、中世の集落の一部などが発見されている。

調査区の立地と堆積土層

調査区は東から西に向かう大きな谷地形の中にあたっており、遺構・遺物の認められなくなる現地表面下約4.0mまで調査した。調査区全体が厚さ約1.2mの盛土で覆われており、盛土層を取り除いてあらわれる現代の耕作面の下層は基本的に、砂、シルト、粘土が堆積している。その土層の間に古墳時代後期（現地表面下約2.2m）と弥生時代（現地表面下約3.0m）の遺構面が存在した。

古墳時代後期の水田跡

古墳時代後期の遺構面からは、区画全体が明らかになった水田跡1枚と区画の一部が確認された水田跡5枚が検出された。水田跡を取り囲む畦畔は幅20～30cm（上部）、高さ約10cmを測る。

水田跡は、東から西へ5cm前後の高低差を持って連なっている。そしてそれぞれを限る畦畔には水口が確認できた。水口が開いた状態で検出されたことから、農閑期の水を落とした時に埋没したことは明らかである。出土した遺物から6世紀中頃のものと推測される。

弥生時代の溝

弥生時代の遺構面では東から西へ流れる溝（幅1m以上、深さ約1m）が検出された。流水堆積による砂、シルトを埋土としていた。谷地形の中を流れる水を管理するために造られたものと考えられる。

縄文時代の遺物包含層

弥生時代の溝は縄文時代晚期の遺物包含層を切り込んで造られており、この土層からは突帯文をもつ深鉢など船橋式、長原式の土器が出土している。

まとめ

小規模な調査であるに関わらず、以上のような多様な遺構・遺物が検出され、水越遺跡の様相の一端を垣間見ることができた。

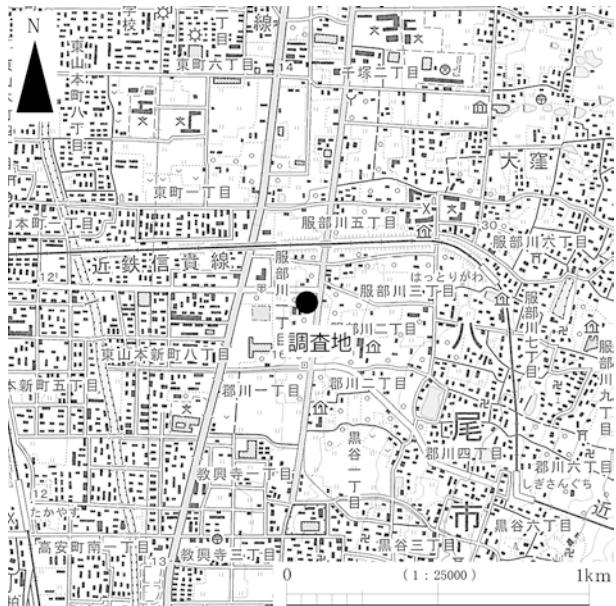


図21 水越遺跡調査地位置図



図22 古墳時代の水田跡（西から）



図23 弥生時代の溝（北西から）

にしふくい 西福井遺跡（15015）

- (1) 茨木市東福井二丁目・西福井三丁目
(2) 一般府道余野茨木線歩道整備工事
(3) 西口陽一・辻本 武

はじめに

西福井遺跡は昭和57年度に府立福井高校建設に伴い発見された遺跡で、翌58年度に発掘調査された。その結果、縄文時代から中世までの各時代の遺構が良好に残る複合遺跡であることが判明した。

今回はこの福井高校の東側を南北に走る府道の歩道設置工事に先立ち、発掘調査したものである。発掘調査は歩道工事の擁壁や田畠への進入路工事によって地下の遺構に影響を与える範囲に限った。調査区名は東側を「1区」、西側を「2区」とした。

調査成果

基本層序 現代の耕土層の下は、13世紀以降の中世の遺物を含む数枚の灰黄褐色～にぶい黄橙色土層がほぼ水平に堆積しているのを観察した。これは長年にわたって耕作地を維持するために、何回も耕作土を積み上げてきた結果と思われる。この中世耕作土層を除去すると、1区ではG.L.-0.8～0.9mのレベルで無遺物の灰白色砂層となり、また2区ではG.L.-0.8mのレベルで黒色土層となる。

1区 中世の耕作跡を示す遺構面を二面検出した。第1面では9本の鋤溝がほぼ平面直角座標方向に平行して走る。この方向はこの地域一帯で現在も見られる条里制地割の方向と一致する。第2面では3本の鋤溝が平面直角座標北から西へ7度傾く方向に走る。第1面とは溝の方向が違うことが注目される。第2面より下層では精査を繰り返したが、遺構はなかった。

2区南半部・拡張部 中世の耕作痕を示す遺構面2面と小ピット列の遺構面の合計3面を検出した。第1面では5本の鋤溝がほぼ平面直角座標方向に平行して走る。拡張部では3本の平行する溝を検出した。第2面では3本の鋤溝がやや蛇行しながらほぼ平面直角座標方向に走る。第3面では径0.3m、深さ0.3～0.4mの小ピット4個が2.2mの等間隔に一列に並ぶ。中世の掘立柱建物跡もしくは柵列跡になろう。第3面より下層では遺構はなかった。なおこの調査区から縄文土器と磨製石斧片が出土している。

2区北半部 中世の生活の痕跡を示す遺構面2面を検出した。第1面では根石の入った二つの小ピットが見つかった。間隔は2.2mで、掘立柱建物跡の一部である可能性がある。これ以外に井戸跡がある。第2面では西側壁寄りに2つの小ピットが0.7m間

隔で見つかった。第2面より下層では遺構はなかった。なおこの調査区から奈良時代の須恵器が出土している。

まとめ

中世以前の遺構は見つかなかったが、縄文時代と奈良時代の遺物が出土しており、近接した地域にこの時代の遺構があることを窺わせる。

中世の生活跡となる小ピット等を検出したが、狭小な調査区のために詳細は不明。中世のある時期以降にこの一帯が農地として開発され、近年にいたるまで営農してきた過程が明らかとなった。

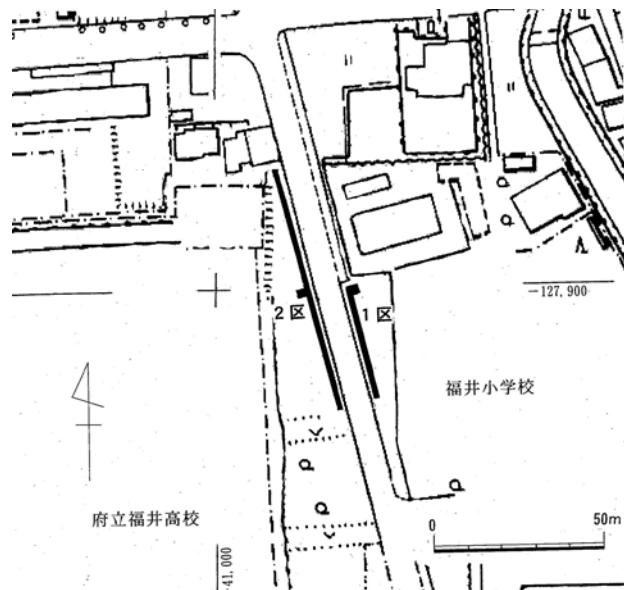


図24 西福井遺跡調査区位置図



図25 2区南半部全景（北から）

遺跡外（15022）

- (1) 池田市井口堂二丁目
(2) 大阪府住宅供給公社井口堂・B団地建替事業
(3) 小林義孝

はじめに

大阪府住宅供給公社の池田市所在、井口堂・B団地の建替えにともない、当該所在地における埋蔵文化財の有無の確認のために2か所の調査区を設定し、試掘調査を実施した。

調査区①

2m×3m(6m²)の規模である。最上層の盛土層以下6層に分かれれる。

- ① 盛土 厚さ約70cm、団地建設時のもの。
- ② 旧耕作土 厚さ約20cm
- ③ 暗茶褐色粘質土 厚さ約30cm。
- ④ 黒褐色粘質土 厚さ約20cm、土師器片を含む。
- ⑤ 暗茶褐色粘質土 厚さ約30cm。
- ⑥ 褐色粘質土(礫を含む) 地山層。

旧耕作土と地山層の間に3層の土層が確認され、黒褐色粘質土には赤っぽい色調の土師器片を含んでいた。古代の時期の所産と考えられる。

調査区②

2m×3m(6m²)の規模である。最上層の盛土層以下4層に分かれれる。

- ① 盛土 厚さ約70cm、団地建設時のもの。
- ② 旧耕作土 厚さ約20cm。
- ③ 褐色土 厚さ約20cm、調査区の一部の範囲で検出。
- ④ 褐色礫層 地山層。

旧耕作土の下層の一部に褐色土が堆積しているが、基本的に旧耕作土の直下に地山層が確認できた。いずれの土層からも遺構・遺物は確認できなかった。

周辺の環境

当該地に南隣して二子塚古墳(全長約40mの前方後円墳)が所在している。丘陵の先端部に造営されたものと考えられる。井口堂・B団地はその背後の丘陵上の平坦地に立地している。この周辺においてはこれまで二子塚古墳以外の埋蔵文化財の包蔵地は周知されていない。しかしこの一帯に集落跡などの遺跡が存在している可能性は想定できる。

まとめ

調査区①で検出された古代の土師器を含む遺物包含層が広がっている範囲は、今回の試掘調査では判断できない。当該団地敷地全体において埋蔵文化財の広がりを確認するために再度試掘調査を実施する必要がある。

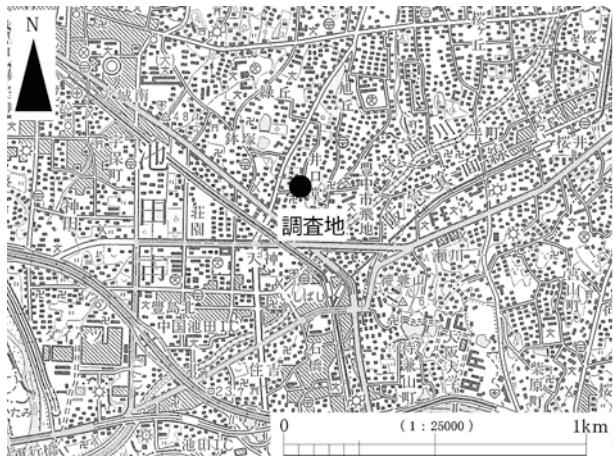


図26 調査対象地の位置

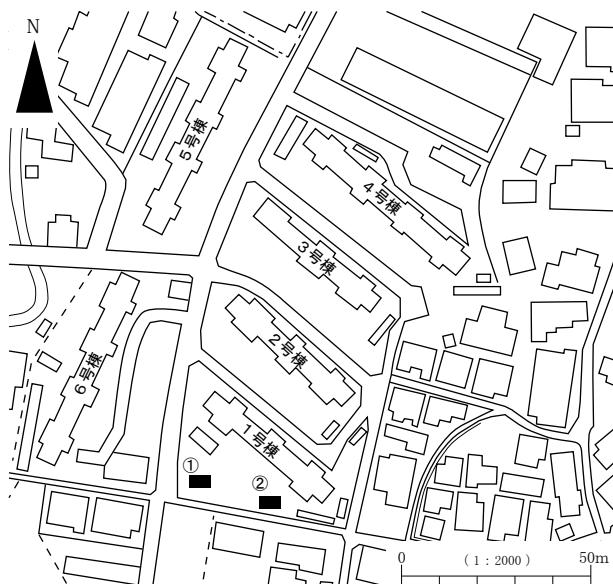


図27 調査区の位置

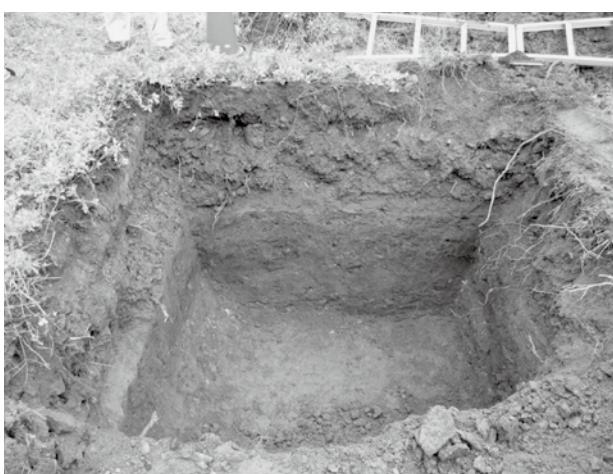


図28 調査区①の調査状況

遺跡外 (15025)

- (1) 大阪市北区
- (2) 大阪府警察施設改築工事
- (3) 井西貴子

はじめに

大阪府警察施設改築工事にともない、周知の埋蔵文化財包蔵地外において試掘調査を実施した。調査地は淀川によって形成されたデルタ上に立地している。

調査概要

敷地内に1箇所の調査区を設定した(3m×2.5m (7.5m²)、図29)。

堆積層は最上層の盛土層以下4層(大別)まで確認した(図30・31)。

- ① 盛土(層厚 約85cm、既存施設建設時のもの。)
- ② 旧耕作土1(層厚 約35cm)
- ③ 砂層(層厚 約25cm)
- ④ 旧耕土2(層厚 約10cm)
- ⑤ 中世作土層(層厚 30cm以上)

橙灰褐色シルト質細粒砂

灰橙褐色シルト質細粒砂

調査地の西側、道路をはさんでほぼ隣接する位置において、公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所により、中津3丁目所在遺跡の発掘調査(以下、「市調査」とする。)が実施されている(平成25年12月～平成26年1月)。市調査では、0～7層までの基本層序と4面の遺構面(江戸時代、室町時代、鎌倉時代の作土層、奈良時代以前の作土)が確認された。

今回の試掘調査の断面観察で確認された、砂層堆積中にある切り合い関係は、市調査の第3a i層上で確認された溝(SD06)とつながる可能性がある。また河川堆積以下の作土層は第3a ii層に相当すると考えられる。

まとめ

今回の試掘調査で検出された砂層堆積及び作土層は市調査とつながっている可能性が指摘され、さらに下層には、奈良時代以前の作土層が検出される可能性が高い。よって大阪市教育委員会とも協議の上、新規発見の遺跡(中津3丁目所在遺跡B地点)として周知するとともに、当該改築工事にあたっては事前に埋蔵文化財の発掘調査を実施する必要がある。

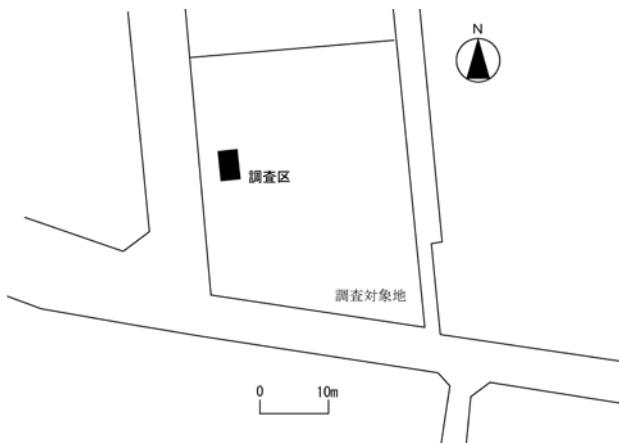


図29 調査区位置図



図30 土層断面模式図

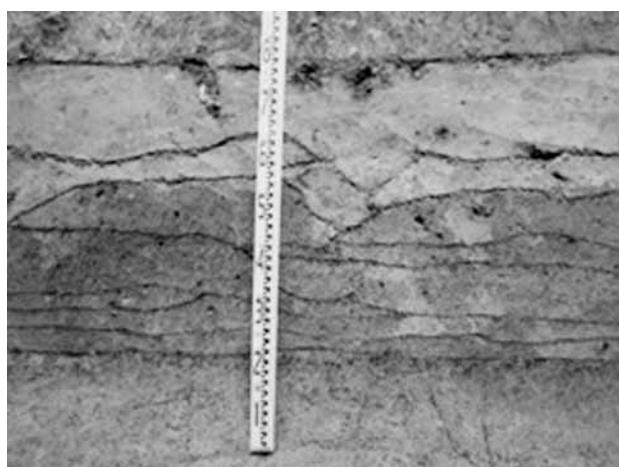


図31 東壁断面

たかしろ 高城遺跡 (15039)

- (1) 吹田市昭和町
(2) 配水管布設工事（豊中正雀連絡管・吹田市）1工区
(3) 岡田 賢

はじめに

高城遺跡は吹田市高城町・昭和町に所在する、古墳時代および平安時代～中世にかけての集落遺跡である。吹田市立第三小学校の西半から西側、および府道14号線を挟んで北側の住宅地までおよぶ範囲となっている（図32）。この府道内において、大阪広域水道企業団事業管理部北部水道事業所により、配水管布設工事が施工されることとなり、標記工事の区間3工区が本遺跡に該当することから、平成26年度に配水管布設のための開削部分において立会を行い、その概要について報告している（図33、以下、「年報19」という。）。

平成27年度については、開削部分の西端に予定されている発進立坑の築造工事に先立つ、試験掘工に伴い立会を行った（図33）。

基本層序

年報19において報告したが、平成26年度における、開削部分の立会で確認した、道路アスファルト、路盤、改良土より下位の基本的な堆積層序について改めて記載しておく。

- 1層：灰色砂質シルト～細粒砂
- 2層：褐灰色礫混じり砂質シルト～細粒砂
- 3層：黄灰色礫混じり砂質シルト～細粒砂
- 4層：褐灰色砂質シルト～粘質シルト
- 5a層：暗褐色粘質シルト
- 5b層：黒褐色粘質シルト～粘土
- 6層：灰黃褐色細～中粒砂（基盤層）
- 7層：灰白色礫混じり粘土～黄褐色砂礫（基盤層）

これらの堆積層は、区間3工区のすべてではなく、その東端部から約30mにわたって確認されたものである。区間3工区の西端から約90mのところまでは、改良土直下は段丘礫層の地山である。それより東側については、東に向かって地山が緩やかに下がり、改良土との間に上記の土層が堆積している。そして層厚も東にむかって増しているため、谷状の旧地形が想定された。

図33における「包含層の確認範囲」は、この谷地形に堆積した上記土層の分布範囲であるが、これらのうち4層から5a層にかけては、12～13世紀頃に属する瓦器碗や土師器等、5b層からは古墳時代の須恵器片が出土している。また1～3層については、近世以降の耕作土と考えられる。なお「包含層

の確認範囲」西端における4層上面は概ねT.P.+4.0m、6層上面はT.P.+3.5m、東端における4層上面はT.P.+3.5m、6層上面はT.P.+2.9mを測る。

平成27年度立会の概要

平成27年度の立会箇所においては、道路アスファルト、路盤、改良土の下には、上記の3層以下の堆積層が認められ、5b層からは須恵器甕の体部片が出土した（図34-1）。外面は格子タタキ目を施し、内面はナデにより調整されている。平成26年度立会箇所よりも、各層位における現地表面からの確認レベルが深く（5b層上面：区間3工区東端で道路面より1.8m下、今回立会箇所で2.4m下）、各層厚も増していることから、年報19の所見どおり谷地形内における堆積層であり、3層以下の堆積層はさ



図32 高城遺跡位置図



図33 調査地位置図

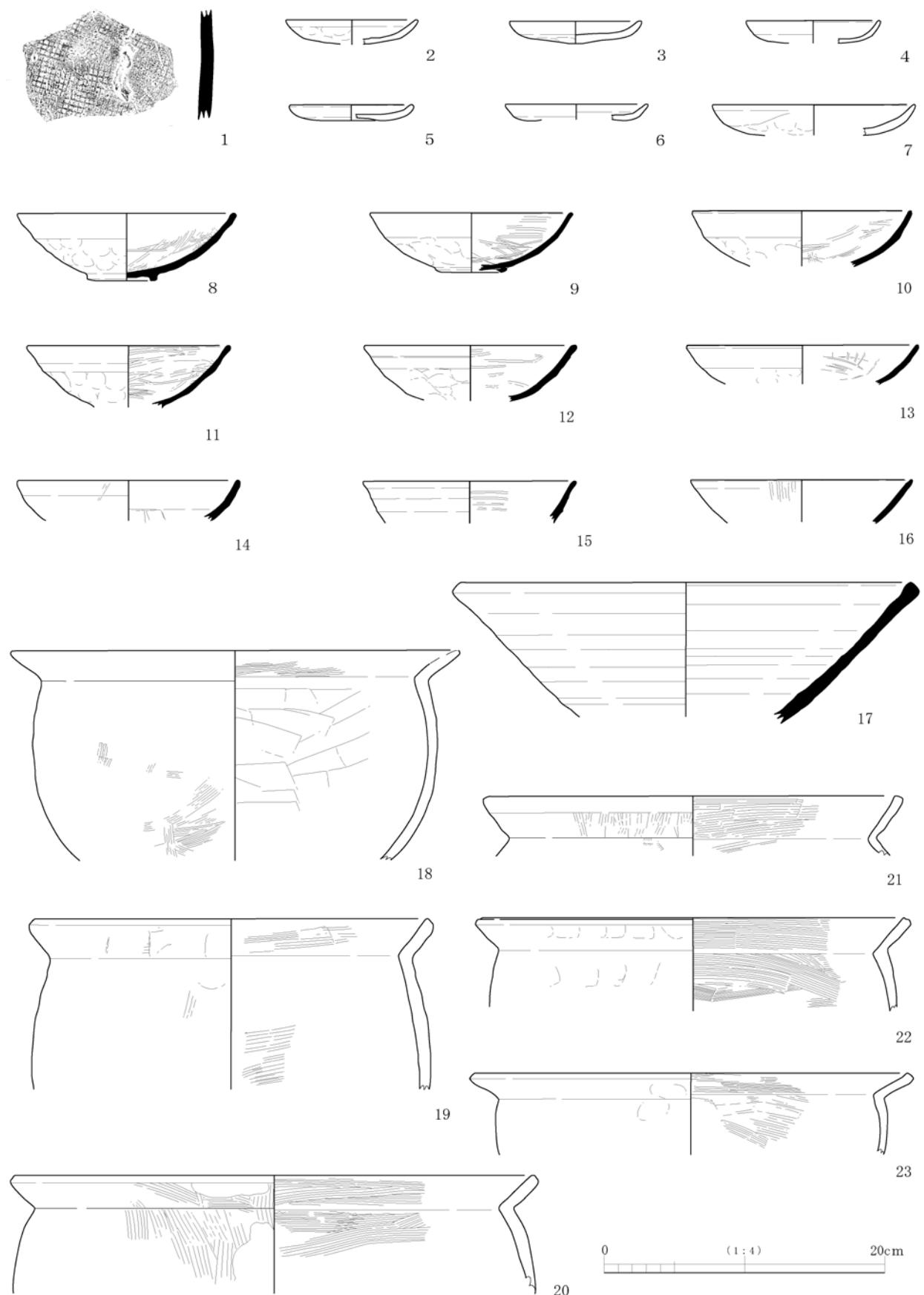


図34 高城遺跡出土土器 (1/4)

1 : H27年度立会 (5 b層)

2~25 : H26年度立会 (4層 (3~7、9~10、12~19、21~22)、4~5a層 (2、8、11、20、23~25))

らに東にも広がることが想定された。なお明確な遺構は確認されなかつた。

平成26年度立会時出土遺物

平成26年度の開削部分における立会において検出した遺物についてここで報告しておく（図34）。

これらの遺物は、4層もしくは4～5a層から出土したものである。5b層からは古墳時代の壺身等が出土しているが、細片であり図示していない。

出土地点は、上記の地山が東へ下がり始める、谷の肩部付近で最も多く、東に向かい堆積層が厚くなるにつれて遺物の包含量も少なくなっていた。したがって、改良土直下が地山となる部分では、中世における遺構が削平を受けていると考えられる。

図34-2～7は土師器皿である。2～6については径が9.5cm程度を測る小皿で、外面には1段ナデが認められる。7は口径14.4cmを測る。体部に切り込み円板技法とみられる痕跡が認められる。

8～16は瓦器椀である。これらは基本的に和泉型Ⅱ期からⅢ期に属し、外面のヘラミガキは施されず、ナデが2段のものもみられ（11・12）、12世紀後半から13世紀前半頃に属するものと考えられる（橋本2009）。8は復元口径15.4cm、器高4.9cmを測る。9は復元口径14.2cm、器高4.2cmを測る。10は復元口径15.5cmを測る。11は復元口径14.4cmを測る。12は復元口径15.0cmを測る。13は復元口径16.5cmを測る。14は復元口径15.0cmを測る。15は復元口径15.4cmを測る。16は復元口径15.8cmを測る。

17は東播系須恵器の鉢である。口縁部は直線的に外傾し、端部を上下にやや拡張させている。復元口径32.0cmを測る。

18～23は土師器甕である。18の口縁端部はやや丸くおさめているが、それ以外の口縁端部には面をもつ。いずれも口縁内面はヨコハケ、体部内面は18は工具によるナデを施し、それ以外はハケメを施す。体部外面はハケメを基本とするが、22、23にはユビオサエが認められる。18の器形はやや球形を呈する。復元口径31.8cmを測る。19はやや長胴となり、復元口径28.0cmを測る。20は復元口径37.0cmを測る。

以上の遺物については、瓦器椀の年代観により、概ね12世紀後半から13世紀前半を中心とする時期のものと考えられる。

まとめ

平成26年度および平成27年度における立会によって、現府道下にも中世や古墳時代の遺物包含層が存在することが明確になった。特に現府道下には、上下水道やガス等の埋設管が、既に多数布設されているが、それらの存在しない部分においては、新規

開削工事に伴って、今後も発掘調査や立会を実施することが必要である。

高城遺跡における既往の調査は、吹田市教育委員会によって、民間開発等に伴う調査が数次にわたって実施されている。これらの調査において、主に古墳時代から中世にかけての遺構、遺物が数地点で発見されている。このうち、今回の立会箇所の南約100mの地点において行われた調査では（吹田市教育委員会2001）、古墳時代後期（6世紀代）の東西方向の溝（最大幅2m）や土坑などを検出している。これら遺構の検出面はT.P.+4.8m付近を測り、今回の立会箇所における古墳時代遺物を含む5b層とは1m近くの比高差が認められる。

これを踏まえると、おそらく今回確認した谷地形は、市立吹田第三小学校の東を北北西—南南東に流れる高畠水路付近を軸として形成されているとみられ、この谷地形と、その西側に広がる、千里丘陵から派生する洪積層の高まりが、高城遺跡における旧地形の要素といえよう。この洪積層の高まりは、おそらく現在の街区の方向と概ね同じ方向で形成されている可能性がある。

今回報告した旧地形と出土した遺物のあり方からすれば、吹田市教育委員会における調査事例もふまると、立会箇所の近隣において古墳時代から中世の集落等が濃密に存在する可能性が高いと考えられる。

（参考文献）

- 大阪府教育委員会 2015 『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報19』
吹田市教育委員会 2001 『平成12年度埋蔵文化財緊急発掘調査概報』
中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
橋本久和 2009 『中世考古学と地域・流通』真陽社

やすまつ だ 安松田遺跡隣接地 (15041)

- (1) 泉佐野市新安松三丁目
- (2) 府営羽倉崎住宅中層耐火住宅跡地試掘調査
- (3) 竹原伸次

はじめに

安松田遺跡は、泉佐野市東羽倉崎町に所在し、府営住宅の建替に伴い、平成15、18、21年度に発掘調査を実施している。

調査の結果、多くの粘土採掘坑を検出し、採掘した粘土を使用して焼成された瓦も出土した。この瓦は、その大きさと釘穴の位置などの特徴から、重源を大勧進として行われた東大寺再建の際に使用された瓦と考えられている。

また、調査地の南東端から焼土、炭、焼けた瓦窯の壁体が出土したことから、この近辺に瓦窯の存在



図35 安松田遺跡隣接地調査地位置図

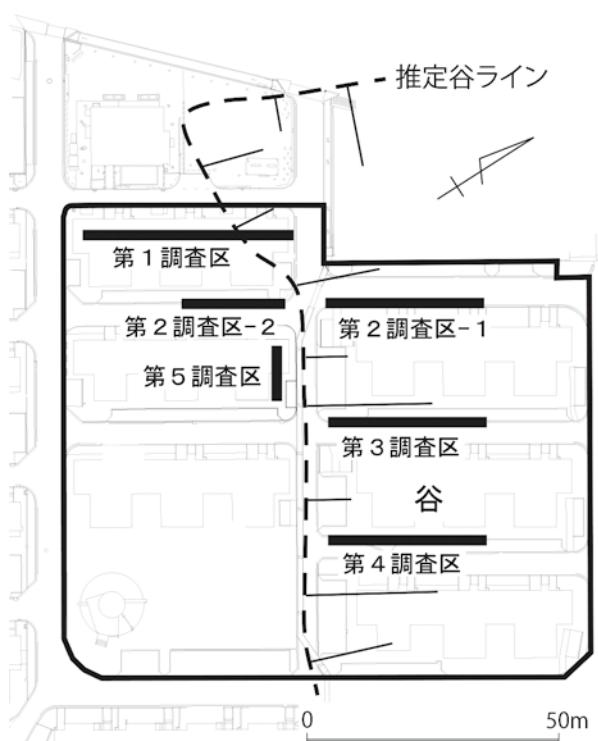


図36 調査区位置図

が予想されたが、安松田遺跡の調査では検出することはできなかった。

平成26年度には、安松田遺跡の道路を挟んで南東側の府営住宅の撤去工事の際にも立会調査を実施した。この結果、用地内に北側に落ちる谷地形を確認することができたが、窯跡等を発見することはできなかった。

試掘調査

このため府教育委員会では、窯跡等の発見を目指し、府住宅まちづくり部の協力のもと、国庫補助金を得て用地内の試掘調査を実施した。

用地内に5ヵ所の調査区を設定した。調査の結果、第1調査区では、昨年度の立会調査時に確認していた谷地形の位置を明確にすることができた。また、第2調査区-2及び第5調査区では、地表下約1mで黄褐色粘質土の地山を検出したが、第2調査区-1、第3、第4調査区では地山は確認されず、用地中央部の通路から谷となることが明らかとなった。

第2調査区-1、第5調査区では、安松田遺跡から続くと思われる粘土採掘坑を検出した。遺物は出土しなかったため、時期は不明であるが安松田遺跡の調査成果から中世と考えられる。遺物は全調査区からも出土しなかった。

また、今回の調査では、窯跡等の発見のために、地中レーダーによる探査を実施した。現地は府営住宅の解体跡地であるため、現況地盤からの探査では明確な結果が出ない可能性があった。このため、掘削後に地中レーダー探査を実施し、窯跡等の遺構検出を図ったが、今回の調査区からは窯跡の明確な反



図37 地中レーダー探査状況

応を得ることはできなかったが、第1調査区の谷のラインや第5調査区のピットについては反応が確認できた。

今回実施したレーダー探査の結果を以下に示す。

安松田遺跡隣接地において G S S I 社製「(ユーティリティスキャンDF」を使用し地中レーダー探査を行い、解析ソフト「RADAN7」を使用して解析を行った結果を以下に報告します。

調査対象地は、大阪府教育委員会が設定した調査区のうち第1調査区、第2調査区-1、第2調査区-2、第3調査区、第4調査区、第5調査区である。

第1から第4調査区は南北方向の調査区で、第5調査区のみが東西方向の調査区である。各々の調査区の長軸方向に測線を3本（両肩部分と中央線である）設定し、地表から地中レーダー探査を実施し、データを取得した。また、掘削後の遺構面に対しても、中央線上に地中レーダー探査を実施し、データを取得した。

次に、各トレーナーで取得したデータについて概観する。

第1調査区

本調査区は、調査対象地の南西部分に設定したものである。掘削前に行った測線距離は約41mである。各々測線の22~23m付近に反応の弱いところが存在し、西側測線および中央測線でその傾向が顕著である。この反応が強い部分は深さ1~1.5m付近に存在する。また、トレーナー掘削後に行った測線距離は約19mで、掘削前に行った測線の12~31mに相当する。この測線では14m以後の部分に顕著な反応がみられる。これは検出面で確認している黒褐色粘質土が存在している範囲とほぼ重なるものである。赤線で示した部分に埋土の境界線が存在すると考えられ、この黒褐色粘質土は谷および傾斜面の存在を示していると判断できる。また、掘削前にとった測線では青線で示した部分がそれに相当すると考えられる。なお、掘削前の測線の0~13mにみられる反応が顕著にみられる部分については掘り下げられており、データの取得を断念した。

第2調査区-1

本調査区は調査地の西端に設定したものである。掘削前に行った測線距離は約30mある。西側測線の深さ1~1.5mに顕著な反応が帶状に存在する。他の測線では弱い反応ではあるが、同じような深さに反応がみられる。

第2調査区-2

本調査区は第1調査区の東側に、第2調査区-2の南側に続くトレーナーとして設定したもので掘削前に行った測線距離は約20mである。深さ1~1.5m

のところに顕著な反応がみられるのは前述したトレーナーと同様である。西側測線と中央測線の3~5mと14~18mのところにやや反応の弱いところが存在する。掘削後の中央測線の3m、6m、12mのところには褐灰色粘質土が存在した。また、0~2m地点の深さ1mより下の部分に傾斜面が存在する可能性が高い。掘削前の中央測線では顕著ではないが、東側測線の2~3mに1.5~2mの深さに傾斜面と思われる部分が存在することから、その部分に傾斜面が存在すると考えられる。

第3調査区

第2調査区-1の東側に設定したトレーナーで他の調査区と同様に1~1.5mの深さで顕著な反応を確認した。10~15m付近ではやや下がる傾向が読み取れる。また、掘削後の中央測線の13m以後にも顕著な反応が確認でき、傾斜面などが存在すると思われる。

第4調査区

最も東側に設定したトレーナーで、西側測線の9m付近から緩やかに下がっていくことがわかる。しかし、他の測線においては不明瞭な反応である。また、3測線に共通して0~4m付近に反応がみられる。

第5調査区

調査対象地のほぼ中央に設定した東西方向の調査区であり、測線は約12mである0~6mの所に3測線で類似した反応がみられる。最も西側に存在することから傾斜面の一部が反応している可能性がある。他の部分については様々な反応がみられるが、その性格を判断することは困難である。また、この調査区では60cm四方のピットを2基確認している。掘削後の測線では3mの所にそのピットの1基の反応が確認できるが、他にもよく似た反応がみてとれる。これらのよく似た反応の部分では遺構と判別がつく土の違いを確認しなかった。

まとめ

今回の地中レーダー探査では、確定的な遺構の確認にはいたらなかったが、大きな変化についてはある程度判別がつくと考えられる。また、ピットなどについても、反応していることも分かったが、その他のものに対しても（含水率の高い土：弱い反応を示す）反応するため、それらとの識別の方法を確立していく必要性があることも分かった。

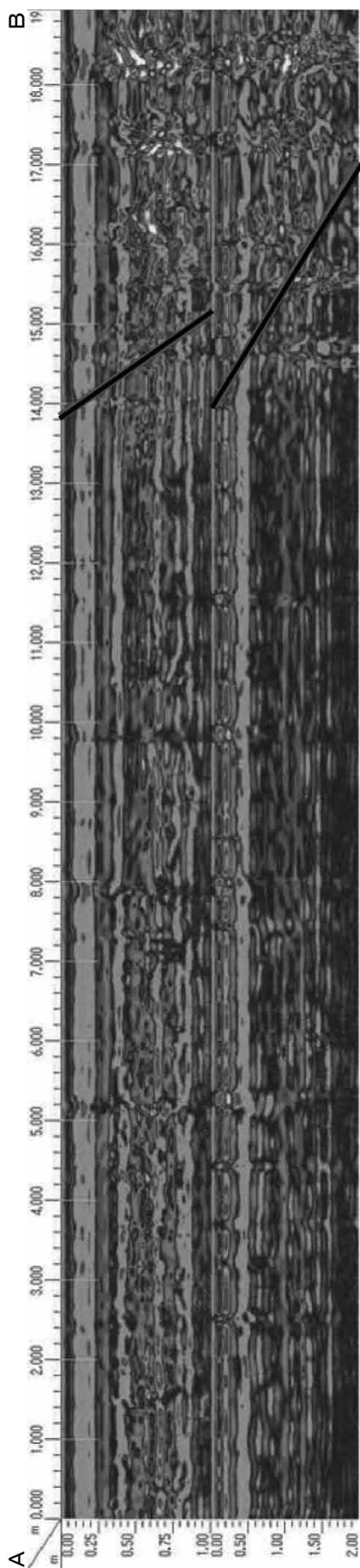


図38 第1調査区レーダー測定図(谷のラインの反応)

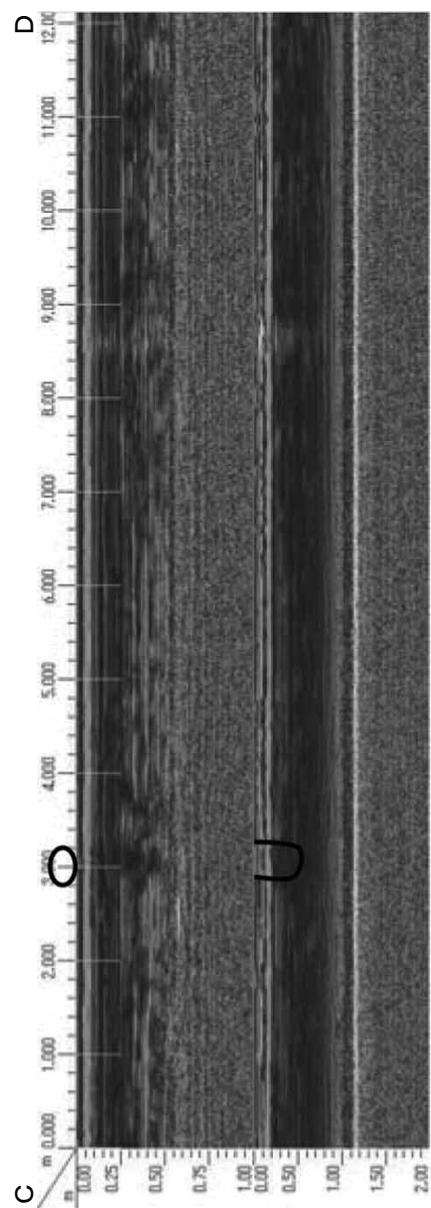


図39 第5調査区レーダー測定図(ピットの落込の反応)

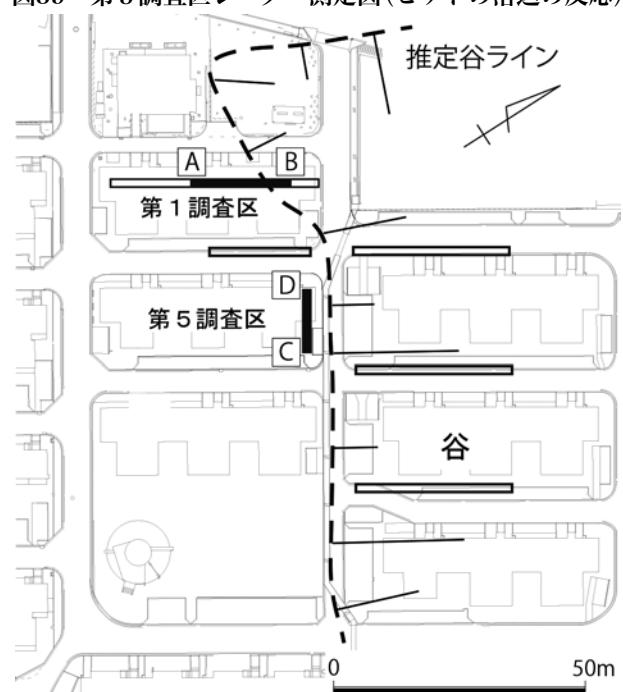


図40 レーダー測定位置図

大園遺跡と渡来人

1. はじめに

大園遺跡は、高石市、和泉市、泉大津市にかけて広がる旧石器時代～近世までの複合遺跡である。遺跡の範囲は南北1.1km、東西1.5kmに及び、大阪府教育委員会（現大阪府教育庁）は第二阪和国道、府道松原泉大津線の建設に伴い、昭和49年度から56年にかけて約6万m²の発掘調査を実施してきた。調査の結果、古墳時代や中世の集落、また大園古墳の発見は、和泉地域の歴史を解明するのみでなく、集落研究の先駆として学史に残る大きな成果を残した。当時の調査成果は発掘調査概要報告として一部が公表されている。

しかし現地調査から40年近くが経過した現在、大量の未公開資料の整理、また現在の研究レベルの進歩に照合しての検討は必要不可欠と思われる。とくに古墳時代の集落研究については、朝鮮半島からの渡来人との関わりという視点を無視できない状況といえよう。

すでに昭和50年度松原泉大津線建設に伴う調査区から出土した埴輪については平成23年度から再整理が開始されている。検討結果は和泉地域における古墳時代前期の埴輪生産としてまとめられ順次報告されている（注1）。本稿では、昨年度再整理で判明した古墳時代中期の大園遺跡の渡来系資料を紹介する。

2. 大壁建物と木組井戸

大壁建物は百濟系渡来集団の住居として注目されている。建築上の用語では壁の中に柱を埋め込む構造を指し（注2）、発掘調査では平面図において、周溝内に壁中に埋め込まれた間柱穴の跡が連続した小穴としてみとめられる。

昭和50年度の調査区では、この大壁建物と思われる遺構がみつかっている（図41）。『大園遺跡発掘調査概要・III』1976（以下概要III）では方形周溝構造と名付けられており、「・・・幅50cm前後、深さ20cm前後の溝が方形に四周を構成するもので、一辺約8mを測る。周溝は連続するものではなく、四隅が掘り残されており、また周溝底は平坦ではなく凹凸をなしており、ピット状を呈している箇所もある。・・・」と報告されている。

この大壁建物は早くから注目されており、花田勝広氏（注3）の集成では、和泉地域の一例としてとりあげられている。一辺8mを測り、図43からも伺えるように溝内にピット状の小穴が認められること、また区画溝により南北48m、東西34mに区画されたエリアの中心建物のように検出されていることなどから、この時期の集落の主屋となる建物として存在していたことは間違いないと思われる。大壁建物の小溝内からの出土遺物は再整理では確認できなかったが、大壁建物東側に検出した竪穴住居2の



図41 昭和50年度調査区平面図

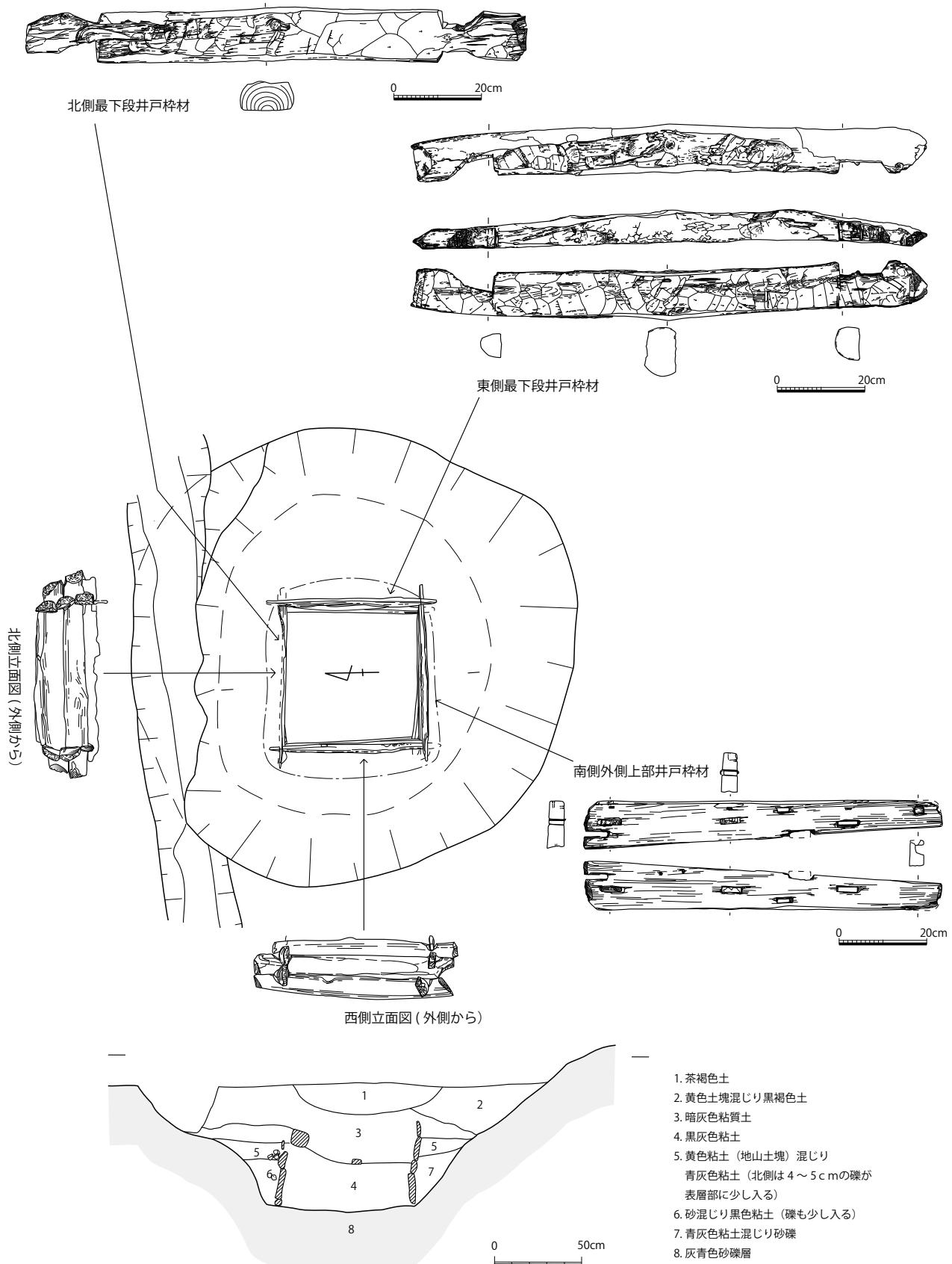


図42 井戸09 平面図・断面図



図43 大壁建物（南から）



図44 井戸09（南から）

上部に広がる不定形落ち込み内からは、I型式2段階に相当する初期須恵器がまとまって出土しているので、その一部をここに紹介しておく（図45-2～6）。

木組井戸は、大壁建物が検出された方形区画内の北西隅で検出された（図41）。概要Ⅲでは井戸09と呼称されており、写真のみ掲載されている。残念ながら40年前の調査でもあり、井戸枠部材現物は残っていない。しかし、昨年度の資料整理で井戸09の平面図、断面図、及び3点の井戸枠部材の実測図を発見したので、細部に至る詳細な状況を報告する。

図42平面図をみると、井戸上部の掘り方は、平面形が円形、南北2m54cm、東西2m60cmを測る。井戸枠の内法は70×75cmの方形で、主軸は正南北、大壁建物と同じ方向である。井戸枠部分は、幅9～13cm、厚さ5～8cm、長さ105～120cmの部材を使用しており、それぞれの部材の両端から約10cmの部分を上下に欠いて井桁状に組み上げている。最底部の部材は相欠きが一方しかないL形の加工になっている。立面図によれば、東、南が4段、西、北は3段検出している。

調査日記等をみると、取り上げた井戸枠部材はほとんどが丸太半割材だったようである。図42の東側最下段井戸枠材の実測図は、三方向からの図面である。最下段の枠材であるため、相欠きは一方向、

L形の加工になっている。直径10cm前後の丸太材の側面を手斧で加工し、板状にしたようであるが、加工は粗く、樹皮が残っていた様子が描かれている。図12北側最下段井戸枠材の実測図からも、直径10cm前後の丸太材を半割にし、側面を手斧で加工し、板状にして部材として使用したのがわかる。

木組井戸については、鐘方正樹氏の研究（注4）に詳しい。鐘方氏は積み上げ式横板組型井戸を相欠き仕口構造により相欠きA類・B類・C類の三種類に分類、A→B→Cの順に出現するとされている。また朝鮮半島では、相欠き仕口型の木組み井戸の分布は百濟の勢力範囲とも重なることを指摘されている。

大阪府ではA類の出土例として、四条畷市部屋北遺跡井戸C2476（注5）がある。部屋北遺跡は、馬飼いに関わる渡来系集団の集落跡で、朝鮮半島南西部の栄山江流域と強い関係がある遺跡である。井戸C2476の井戸枠は上部を円形丸太割り抜き材で造り替えているが、当初は横板組みであり、6世紀初頭までには構築されたと考えられる。

大園遺跡の井戸09は仕口の構造から部屋北井戸C2476と同様A類と考えられるが、部材の加工が粗く、ほとんどが丸太の半割材で分厚い。しかし井戸枠内最底部から出土した須恵器小型鉢（図45-1）はI型式2段階にさかのぼる可能性があり、井戸

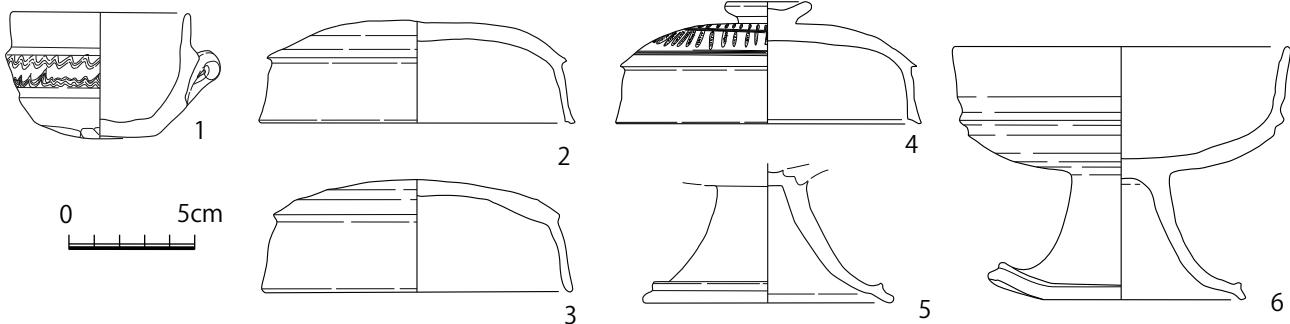


図45 井戸09、落ち込み出土須恵器

09は積み上げ式横板組井戸としては国内最古級の検出例となるであろう。

井戸09についてさらに注目に値するのは、南側外側上部部材として利用されていた板材で、実測図にしめされた形状から準構造船の舷側板を転用して使用していることが判明した。この部材は、図44出土状況の写真をみると、井戸枠南側を外側から補強するように添えられている。

実測図（図46）によると、長さ81.5cm、幅10.8～7cm、厚み3.5cmを測り、方形孔や木くさびを打ち込んだ跡が記されている。図46①～③は 1.3×4.4 ～ 4.6 cmの方形孔で、孔の中心から計測すると27cmの等間隔で穿たれている。①と②の方形孔には桜の皮を挟み込んだ状態の栓が差し込まれて残っている。①、②の方形孔は板に対して垂直にうがたれていますが、③、⑤の方形孔はやや斜めに穿たれているようである。④は 1.7×1.5 cmの方形孔で貫通はしていない。

実測図の注記には、「⑥～⑧は側面に残る木くさびで、破線部分に打ち込まれている。厚さは3mmを測る。⑨～⑪は⑥～⑧と同様くさび状のものが打ち込まれているが、反対側には貫通していない。」とあり、この舷側板は準構造船の部材の接合状況を考える上で良好な資料といえよう。大園遺跡は海岸線に近い立地でもあり、廃棄された船材を入手することは容易であったかと思われる。

3. 筒形土製品とU字形板状土製品

次に出土遺物から渡来人との関係を示す資料として、筒形土製品とU字形板状土製品（竈の焚口枠）をとりあげ紹介したい。

筒形土製品は、上下が貫通した円筒形の土製品で、煙突形土製品とも称される。坂靖氏（注6）や田中清美氏（注7）の研究によれば、その用途は主として造り付けカマドや鍛冶炉の排煙具で、朝鮮半島、とくに百濟地域の影響を受けて製作しているものであることが明らかにされている。

昭和50年度調査区では、筒形土製品が3点出土している。すべて古墳時代遺物包含層からの出土である。図47-7・8は、色調は灰黄色の軟質焼成で内面にススが付着していることから、排煙具としての用途が考えられる。2点共端部が残る方を上に向

けて実測した。8は復元径は11～12cm、上端部から4cm下がったところに復元径約16cmの鐔がめぐる。7は鐔よりさらに10cmほど下がった位置に、下向きの把手が付いており、その直下は欠失しているが、体部は広がり円錐状になるようである。図47-9は須恵質で復元径約13.5cmを測る。上下端と

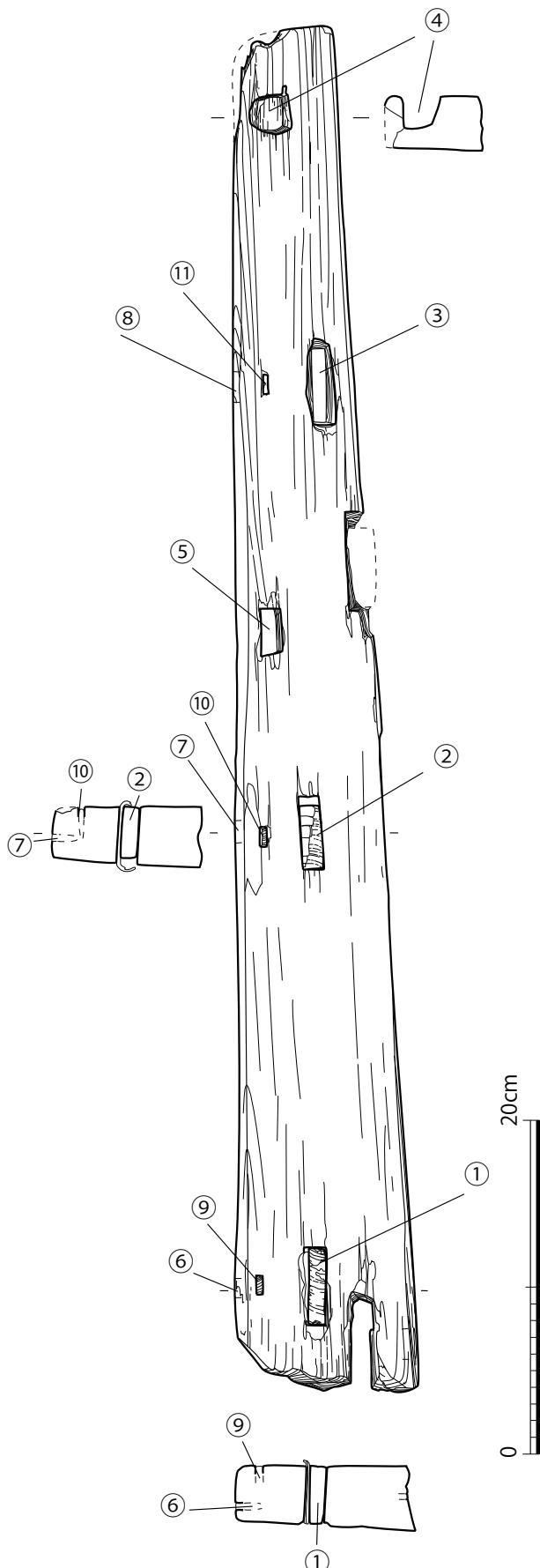


図46 舷側板実測図

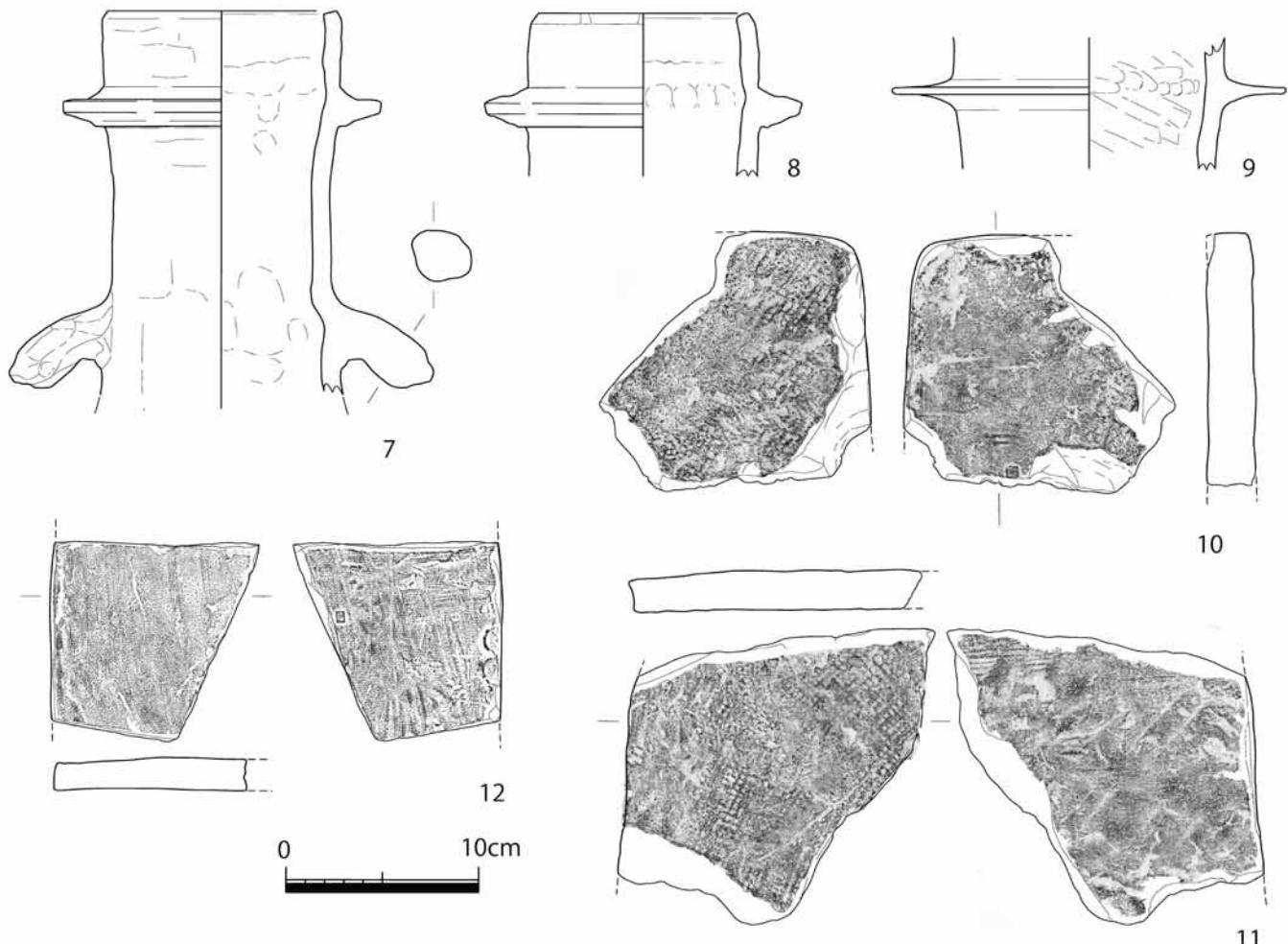


図47 筒形土製品・U字形板状土製品実測図

も欠失しているが、残存部分に復元径約20cmの鍔がめぐる。スヌは付着していないので、給・排水管や支柱など排煙具以外の用途も考えられる。このような筒形土製品の出土例は、大阪府では北・中河内から和泉地域まで数例みられる。和泉地域では陶邑窯址群内の集落遺跡である大庭寺遺跡、伏尾遺跡などで出土例がある（注8）。

U字形板状土製品は、造り付けカマドの焚き口前面に保護、装飾のため立てたとされる土製品である。筒形土製品と同じく、朝鮮半島南西部、とくに栄山江流域地方の影響をうけて、製作された土製品である。大阪府では先述の木組み井戸C2476を検出した都屋北遺跡で、322点の破片の出土例があり、表面に付く突帯の位置や形状によってI～Vの5タイプがある。大園遺跡では、昭和50年度調査区の古墳時代遺物包含層から、3点のU字形板状土製品が出土している。3点とも突帯はない。

図47-10は右側のコーナー部分、11は左側のコーナー部下にあたり、2点とも色調は灰白色、瓦質にちかい軟質焼成で、厚さは2～2.5cmを測る。表面は部分的に格子タタキ目、裏面は板の圧痕がわずか

に残る。製作方法は、土台板に粘土を押し付けて広げ、タタキ板で成形したと考えられる。12は須恵質、左側の脚部で表裏ともにナデ調整が施されている。10・11より小ぶりと思われ、厚みは1.5～1.8cmを測る。

U字形板状土製品の出土例は、大阪府では先述の都屋北遺跡が所在する北河内に集中しているが、和泉地域でも、大庭寺遺跡、ON231号窯灰原（注9）など陶邑窯址群内の集落遺跡に若干の出土例がある。ON231号窯から出土した資料は、表裏両面とも大園遺跡出土例と同様の格子タタキで調整されている。

4. おわりに

大園遺跡から発見された渡来系資料を遺構・遺物から二種類ずつ紹介してきた。紹介した資料はいずれも朝鮮半島南西部、百濟地域から影響をうけたと考えられるものである。このことからみて、それまでは埴輪や古墳作りの集団のキャンプ地だった場所に、五世紀中頃以降百濟系の渡来人が居住したことは、間違いかろう。

丘陵部に操業を展開する陶邑窯址群内の集落でも

筒形土製品やU字形板状土製品は出土しており、大園遺跡と須恵器工人、須恵器生産との関わりが注目される。

今後は、大園遺跡出土須恵器の詳細な検討が必要と思われるが、その報告は稿を改めたい。

(藤田道子)

注1. 三木弘他2015「和泉地域における古墳時代前期の埴輪生産」『大阪府立近つ飛鳥博物館館報』18大阪府立近つ飛鳥博物館

注2. 宮本長二郎1986「住居」『岩波講座日本考古学』4 岩波書店

注3. 花田勝広2005「古墳時代の畿内渡来人」『ヤマト王権と渡来人』サンライズ出版

注4. 鐘方正樹2013「6～7世紀における井戸枠の構造と変化」『続・井戸再考』埋蔵文化財研究会

注5. 大阪府教育委員会2010『蔀屋北遺跡I』、2012『蔀屋北遺跡II』

注6. 坂靖2007「筒形土製品からみた百濟地域と

日本列島」『考古学論究－小笠原好彦先生退任記念論集』小笠原好彦先生退任記念論文集刊行会

注7. 田中清美2014「近畿地方出土の煙突形土製品と渡来人」『韓式系土器研究XIII』韓式系土器研究会

注8. 大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会1989『陶邑・大庭寺遺跡』、大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会1992『陶邑・伏尾遺跡II』

注9. 大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会1994『野々井西遺跡・ON231号窯跡』



図48 筒形土製品（図47-7）



図49 筒形土製品（図47-8）



図50 筒形土製品（図47-9）



図51 U字形板状土製品（図47-10・11表面）



図52 U字形板状土製品（図47-10・11裏面）

文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業

■研修事業

国際協力機構（JICA）の海外研修生2名（エジプト、ヨルダン）に対し、日本の文化財の保護・活用、および調査事務所の役割・機能について説明を行った。

中学生の職場体験学習は2校、計7名を受け入れた。出土遺物の整理作業（水洗、接合、拓本、デジタルトレース）や梱包方法を実習するなど、調査事務所で行っている各種の業務を経験した。また1校では、みかん山古墳群（東大阪市）を取り上げ、作成したパネルとともに須恵器などをロビー展示した。

高校生（2名）のインターンシップについても、業務体験や講義を通じて文化財保護の意義と保護行政における調査事務所の役割について知る機会を設けた。

大学生（2名）のインターンシップは2週間の期間が設定されていることから、調査事務所内での実技や講義だけでなく、文化財保護課が所管する収蔵庫での資料整理や公開準備等の作業、あるいは府立博物館の見学なども行い、より多角的な視野から文化財保護への理解を図った。

■発掘調査等の現地公開

高石市教育委員会の発掘に調査協力した大園遺跡では弥生時代後期の柱穴や土坑、古墳時代中期の掘立柱建物や溝が見つかり、弥生時代前期の土器、古墳時代の円筒埴輪や盾・鳥形の埴輪等が出土した。

寝屋川市の上垣内遺跡では古墳時代後期の堅穴住居や掘立柱建物が発見され、土器類が出土した。

両遺跡では現地公開を開催し、地元住民をはじめいずれも100名以上の見学者の参加があった。

現地公開を実施できなかった遺跡の発掘調査については、文化財保護課のホームページでその成果を公開している。

また史跡池上曾根公園での和泉商工まつり（10月24・25日）に合わせて、和泉池上文化財収蔵庫の特別公開を実施し、収蔵庫内で収納展示している古墳時代の準構造船の部材をはじめ縄文土器、弥生土器、須恵器、瓦等の見学と、須恵器や瓦にふれる機会を設けた。2日間で339人の参加があった。今後、和泉池上収蔵庫の特別公開の機会を増やしていく予定である。

■出かける博物館事業（展示・関連講演等）

高石市教育委員会に協力して発掘調査を行った大園遺跡の成果速報と、これまでの大園遺跡の発掘調査によって発見された弥生・古墳時代の祭祀遺物を



図53 中学生の職場体験



図54 大学生のインターンシップ



図55 上垣内遺跡の現地公開



図56 和泉池上文化財収蔵庫の特別公開

中心とする和泉地域の古代の祭祀遺物を取り上げ、「大園遺跡は語る」展を高石市立図書館郷土資料室で開催した。また関連事業として2月4日に府・市職員による講演会を行った。

平成25・26年度に実施した大和川今池遺跡の発掘調査の成果速報として「大和川今池遺跡速報展」を大阪府立狭山池博物館で実施した。

大阪府立弥生文化博物館の展示室改修により、従来の弥生プラザコーナーがなくなつたが、展示室の外に展示ケースを置いて弥生プラザの役割りを継続することとし、その第1回目として和泉市南部から岸和田市北部にかけての「卑弥呼の時代」頃の集落から出土した、地元の特徴とは異なる土器（外来系土器）を取り上げ、「西を向くムラ、東を向くムラ」と題した展示を行つた。

このほか、府立狭山池博物館と河内長野市立ふるさと歴史学習館の巡回による「南河内の縄文時代展」、茨木市立文化財資料館での「古墳時代の安威川流域」展と「燃やされた墓—上寺山古墳里帰り展—」パネル展示をそれぞれ共催し、府立近つ飛鳥博物館の「歴史発掘おおさか2015」展に大坂城三の丸出土の金箔瓦・ものさし・京枱・分銅、狭山藩陣屋跡から出土した瓦類の出品等を行つた。

■出かける博物館事業（講演・遺跡案内、イベント応援等）

各種の機関・団体等から依頼を受けて講演会や講座等に講師を派遣した回数は19件を数える。博物館や資料館が主催する講演会のほか、団体による自主学習講座などもある。

府では、職員の研究や実績に基づいた講師依頼に対しては、できるだけ対応するように努めている。

また今後、文化財の普及・公開を視野に入れた市町村との連携をより強め、学校教育を通じて子供たちの文化財への興味・関心を高めるためのさまざまな事業を推進していく。

■ホームページでの調査成果公開

発掘調査については、5遺跡・6件の調査成果を公開した。いずれも現地公開を実施することができなかつた遺跡である。このように、原則、発掘調査の成果については、何らかの方法によって公開している。

またかつての発掘調査によって出土した遺物のうち、未公表や再検討が必要なものについては改めて整理を進めている。こうした再整理事業の中から、大坂城跡から出土した金箔瓦、大園遺跡の須恵器筒形器台に視点を当て、それぞれ紹介した。



図57 高石市立図書館「大園遺跡を語る」展



図58 「大園遺跡を語る」講演会



図59 府立弥生文化博物館弥生プラザ
「西を向くムラ、東を向くムラ」

表4 平成27年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧（1）

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
研修	大阪府文化財愛護推進委員全体研修会	2015年7月9日	府立狭山池博物館	東アジアの中の狭山池	大阪府文化財愛護推進委員	
	国際協力機構（JICA）研修	2015年12月7日～11日	調査事務所ほか	課題別研修「博物館とコミュニティ開発」	JICA研修生（エジプト・ヨルダン各1名）	
	職場体験学習（中学生）	2015年11月12・13日	調査事務所	文化財保護課調査事務所の業務体験	赤坂台中学校体験希望者	
	職場体験学習（中学生）	2016年2月3～5日	調査事務所	文化財保護課調査事務所の業務体験	福泉南中学校体験希望者	
	インターンシップ（高校生）	2015年7月23～25日	調査事務所ほか	文化財保護課調査事務所の業務実習	堺工科高等学校希望者	
	インターンシップ（大学生）	2015年8月3日～14日	調査事務所ほか	文化財保護課調査事務所の業務実習	近畿大学希望者	
発掘調査等の現地公開	大園遺跡現地公開（高石市教育委員会へ調査協力）	2015年6月26日	高石市大園現地	住宅開発事業に先立つ発掘調査成果の現地説明	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開
	上垣内遺跡現地公開	2015年7月4日	寝屋川市明和現地	道路建設事業に先立つ発掘調査成果の現地説明	一般	文化財保護課ホームページ埋蔵文化財情報でも公開
	大阪府文化財収蔵庫の特別公開	2015年10月24・25日	和泉池上文化財収蔵庫	収蔵展示案内	一般	大阪府ホームページ催し案内でも公開 府立弥生文化博物館と連携
	文化財調査事務所ロビー展示見学	2015年3月3日	調査事務所	ロビー展示案内	堺市若松台小学校	
出かける博物館事業（展示・関連講演等）	府立狭山池博物館「南河内の縄文時代展」	2015年4月28日～2015年5月24日	府立狭山池博物館	河内長野市内で調査された縄文時代の集石群などを紹介	一般	大阪狭山市教委、河内長野市教委、府立狭山池博物館との共催事業
	河内長野市立ふるさと歴史学習館「南河内の縄文時代展」	2015年5月27日～2015年7月5日	河内長野市立ふるさと歴史学習館	府立狭山池博物館で開催された展示会を巡回	一般	大阪狭山市教委、河内長野市教委、府立狭山池博物館との共催事業
	茨木市立文化財資料館「古墳時代の安威川流域」	2015年8月5日～2015年9月28日	茨木市立文化財資料館	府教委が実施した安威遺跡、安威城遺跡の出土遺物を展示	一般	茨木市立文化財資料館との共催
	茨木市立文化財資料館「燃やされた墓—上寺山古墳里帰り展—」パネル展示	2015年8月5日～2015年9月28日	茨木市立文化財資料館	昭和36年に緊急発掘調査した上寺山古墳を写真パネルで紹介	一般	茨木市立文化財資料館との共催
	高石市立図書館郷土資料室「大園遺跡を語る」	2015年10月31日～2016年2月22日	高石市立図書館郷土資料室	平成26年度に高石市教委の発掘に調査協力した大園遺跡の調査成果および大園遺跡を含めた和泉地域の古代の祭祀遺物を紹介	一般	高石市教委・センター・府立弥生文化博物館と共に
	府立狭山池博物館「大和川今池遺跡速報展」	2015年12月11日～2016年1月17日	府立狭山池博物館	平成25・26年度に実施した大和川今池遺跡の発掘調査成果速報展	一般	府立狭山池博物館との共催事業
	府立弥生文化博物館「西を向くムラ 東を向くムラ」	2016年1月16日～2016年6月30日	府立弥生文化博物館	大津川周辺の遺跡から出土した庄内式期頃の外来系土器を紹介	一般	府立弥生文化博物館と共に
出かける博物館事業（講演・遺跡案内等）	府立近つ飛鳥博物館「歴史発掘おおさか2015」	2016年1月23日～2016年3月21日	府立近つ飛鳥博物館	再整理を行った大坂城三の丸跡、狭山藩陣屋跡、上寺山古墳の出土遺物を出品・展示	一般	大坂城三の丸跡、狭山藩陣屋跡、上寺山古墳の出土遺物を貸出
	第42回建設技術発表会	2015年6月15日	エル大阪	「博物館を活用した土木技術の展示について—府立狭山池博物館で『安威川ダムの誕生展』を開催—」として土木技術からの博物館展示を紹介	講座応募者	大阪府都市整備部主催
	泉北すえむら文化財歴史講座	2015年7月5日	堺市立泉北すえむら資料館	倭国伝を読む①広開土王碑を読む	一般	
	泉北すえむら文化財歴史講座	2015年8月2日	堺市立泉北すえむら資料館	倭国伝を読む①『宋書』倭国伝を読む	一般	
	泉北すえむら文化財歴史講座	2015年9月6日	堺市立泉北すえむら資料館	倭国伝を読む③『隋書』倭国伝を読む	一般	
	泉北すえむら文化財歴史講座	2015年10月4日	堺市立泉北すえむら資料館	倭国伝を読む④『旧唐書』倭国伝・日本伝を読む	一般	
	堺自由の泉大学	2015年8月6日	堺市立女性センター	ちまたの考古学 道路と交通から堺を探る	講座応募者	
	堺自由の泉大学	2016年2月4日	堺市立女性センター	土師氏と堺	講座応募者	
	堺自由の泉大学	2016年3月3日	堺市立女性センター	堺の酒づくり	講座応募者	
	文化財講座	2015年8月1日	泉大津市立弥生学習館	対談「池上曾根遺跡出土木製品の理化学分析、現状と課題」	一般	中塙武氏（総合地球環境学研究所）との対談
	文化財講座	2015年9月5日	泉大津市立弥生学習館	『魏志』倭人伝に記された「倭国大乱」と気候変動（講演）および古文獻の気候変動記事と考古資料・理化学成果との整合（対談）	一般	
	第21回郷土史教室講座	2015年8月22日	茨木市立文化財資料館	「古墳時代における安威川流域の開発と竹村屯倉」	一般	展示会関連事業
	高槻市立しづかと歴史館連続講演会	2015年11月1日	高槻市立しづかと歴史館	「河内往生院と生駒山の山寺」	一般	

表4 平成27年度 文化財調査事務所での普及・啓発・公開事業一覧（2）

事業	事業名	実施年月日	実施場所	内容	対象	備考
出かける博物館事業（講演・遺跡案内等）	府立狭山池博物館講演会	2016年1月9日	府立狭山池博物館	「大和川今池遺跡の最新調査成果」	一般	速報展関連事業
	平成27年度資料館歴史講座	2016年1月31日	八尾市立歴史民俗資料館	「中世の集村化と惣墓」	一般	
	郷土資料室展示連携講演会	2016年2月4日	高石市立図書館郷土資料室	「大園遺跡を語る」	一般	展示会関連事業
	自主学習グループ「みち」講演会	2015年8月23日	岸和田市立女性センター	「仁徳天皇難波高津宮の謎をとく」	一般	
	奈良地理歴史の会関東支部秋季講演会	2015年10月31日	さいたま市文化センター	「最近の飛鳥の発掘調査成果から」	一般	
	古代から近世の枚方	2015年11月15日	枚方市立メセナ枚方会館	「近世の枚方宿をめぐる一様相－考古学からみた古代の淀川水運－」	一般	
出かける博物館事業（イベント応援等）	考古学文献を読む会	2016年2月7日	エル大阪	「中国発見の三角縁神獣鏡、気候変動からみた弥生集落の終焉時期」	会員	
	府立弥生文化博物館 夏休みフェスタ	2015年8月22・23日	府立弥生文化博物館	土器パズル等イベント応援	一般	
	府立弥生文化博物館	2015年10月24・25日	府立弥生文化博物館	土器パズル等イベント応援	一般	和泉市商工まつり
	府立弥生文化博物館 関西文化の日	2015年11月14・15日	府立弥生文化博物館	土器パズル等イベント応援	一般	府立弥生文化博物館無料開放
	府立近つ飛鳥博物館 うめまつり 安藤忠雄氏講演会	2016年3月5日	府立近つ飛鳥博物館	近つ飛鳥を梅いっぱいに	一般	近つ飛鳥梅いっぱい委員会
その他	府立弥生文化博物館 弥生フェスティバル	2016年3月25～27日	府立弥生文化博物館	体験屋台村等イベント応援	一般	府立弥生文化博物館無料開放
	なにわなんでも大阪検定 作問委員会	2015年8月19日 2015年9月17日	大阪商工会議所	検定作問とその検討	作問委員他	
文化財保護課ホームページでの調査成果公開	大和川今池遺跡	2015年2月～2015年5月調査	埋蔵文化財情報 発掘調査情報	府道拡幅工事に伴う調査 平安時代と鎌倉時代の屋敷地を発見。平安時代の屋敷地では6棟の掘立柱建物を復元	一般	
	大和川今池遺跡	2015年2月～2015年5月調査	埋蔵文化財情報 発掘調査情報	府道拡幅工事に伴う調査 濠で囲まれた鎌倉時代の居館を発見。敷地内に建物や井戸などを設けている。土師器、瓦、瓦器などが出土	一般	
	西福井遺跡	2015年11月～2015年12月調査	埋蔵文化財情報 発掘調査情報	府道歩道整備工事に伴う調査 掘立柱建物（柵列）、根石を置く小穴、井戸を発見。土師器（中世）、須恵器（奈良・古墳時代）が出土	一般	
	尺度遺跡	2015年11月～2015年12月調査	埋蔵文化財情報 発掘調査情報	農林センター施設整備事業に伴う調査 古墳時代後期の堅穴住居や溝を発見	一般	
	水越遺跡	2016年1月～2016年2月調査	埋蔵文化財情報 出土資料紹介	下水道の整備事業に伴う調査 古墳時代後期の水田面、弥生時代の溝が発見され、縄文時代晚期の土器も出土	一般	
	太田川遺跡	2015年9月～2015年10月調査	埋蔵文化財情報 出土資料紹介	下水道の整備事業に伴う調査 谷を埋める堆積土の中から須恵器などが出土	一般	
	大坂城跡	2015年10月23日公開	埋蔵文化財情報	大坂城跡から出土した金箔瓦を紹介	一般	
	大園遺跡	2016年3月20日公開	埋蔵文化財情報	大園遺跡から出土した須恵器の筒形器台を紹介	一般	

平成27年度収蔵資料

1. 新収蔵資料

- 新たに下記の故松野義正氏所蔵の府指定有形文化財ほか資料の寄贈を受けた。
- ・木津川床発見の平城宮瓦（考古第28号） 瓦33点、塼2点
 - ・桂川床発見の平安京瓦（考古第29号） 瓦3点
 - ・平城宮他出土瓦等 一括
- また、大手前大学より故藤井直正先生所蔵の箕面市勝尾寺八天石藏関係資料一式の寄贈を受けた。

2. 所蔵資料

■埋蔵文化財（各収蔵庫・整理箱数）

- (1) 北部収蔵庫（摂津市鳥飼中） 3,276箱
- (2) 東大阪収蔵庫（東大阪市長田東） 45,799箱
- (3) 泉北収蔵庫（高石市綾園） 36,119箱
- (4) 文化財調査事務所（堺市南区竹城台） 6,506箱
- (5) 泉佐野収蔵庫（泉佐野市日根野） 42,839箱
- (6) 近つ飛鳥博物館（河南町大字東山） 7,762箱

(7) 和泉池上収蔵庫（和泉市池上町） 22,147箱

■民俗文化財

- (1) 谷口家資料 221点
- (2) 上辻家資料 132点
- (3) 守田コレクション 200点
- (4) 上平家資料 150点
- (5) 畑野家資料 68点
- (6) 三宅家資料 一括
- (7) 大恩寺資料 一括
- (8) 前西家資料 22件

■美術工芸品

- (1) 田中家文書一括 5箱4,100点
- (2) 「府立大阪博物場」資料

 - ・旧蔵美術工芸品（大阪府指定文化財） 277点
 - ・古銭（大阪府指定文化財） 4箱3,078点
 - ・その他博物場資料 一括

- その他写真・図面・図書資料 一括

平成27年度調査・研究等の検討会

第1回 2015年4月8日（水）

「大阪府の天然記念物について（樹木）」 井西貴子

第2回 2015年5月13日（水）

「久宝寺遺跡の調査成果について」 岡田 賢

第3回 2015年6月10日（水）

「韓国調査の中から（寺院を中心に）」 横田 明

第4回 2015年7月8日（水）

「上垣内遺跡の発掘成果」 西川寿勝

第5回 2015年9月9日（水）

「松原市大和川今池遺跡の発掘調査」 山田隆一

第6回 2015年10月14日（水）

「瓜破北遺跡」 井西貴子

第7回 2015年11月11日（水）

「貝塚市加治・神前・畠中遺跡の調査」 竹原伸次

第8回 2015年12月9日（水）

「指定文化財（美術工芸品）を担当して」 有井宏子

「モンゴル紀行」 岡本敏行

第9回 2016年1月13日（水）

「香里団地以前-陸軍香里工廠の復元-」 森井貞雄

第10回 2016年2月10日（水）

「古代日韓の補強土工法（通観）」 小山田宏一

第11回 2016年3月9日（水）

「四條畷市 砂遺跡について」 宮野淳一

平成27年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧

大阪府埋蔵文化財調査報告

2015-1 『芹生谷遺跡V』

2015-2 『長原遺跡-大阪広域水道企業団東部水道事業所長吉立坑築造工事に伴う発掘調査-』

2015-3 『加治・神前・畠中遺跡-大阪府立貝塚高等学校本館棟改築に伴う発掘調査-』

2015-4 『上垣内遺跡-都市計画道路梅が丘高柳線の建設に伴う発掘調査-』

2015-5 『大県遺跡・東高野街道-一般国道（旧）170号交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査-』

2015-6 『久宝寺遺跡-久宝寺緑地遊水地周辺整備工事に伴う発掘調査-』

2015-7 『桜塚古墳群-大阪府豊中警察署改築工事に伴う発掘調査-』

年報

『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報19』

平成27年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧

表5 実物資料・複製資料長期貸出

※府指定有形文化財

件数	申 請 者	遺 跡	資 料 内 容 ／ 点 数	目的（展示内容等）
1	国立歴史民俗博物館	池上曾根遺跡	石庵丁3 計3点	総合展示（「稻と倭人」）
2	大阪府立狭山池博物館	池尻城跡 大和川今池遺跡	青金1 鉄1 計2点	常設展示（「中世の土地開発と狭山池」）
3	大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）	大坂城跡	鍋蓋1、しゃもじ2、玉杓子2、串2、金箸1、箸11、楊枝2、脚付膳1、漆椀2、土師質土器皿1、瀬戸灰釉皿1、櫛3、骨製笄2、銅製笄1、紅皿1、毛抜き1、すがろく駒1、碁石3、羽子板2、木製人形3 計43点	常設展示（4階エレベーター前）
4	大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦10、軒平瓦8、鬼瓦3、雁振瓦1、瓦器椀7、土師皿11、備前焼摺鉢1、土師質羽釜1、陶磁器5、硯1 計48点	授業・展示
5	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器壺2、須恵器15（杯5・高杯3・椀1・甕4・こね鉢1・その他1）、韓式系土器甕1、土師器13（壺3・甕2・高杯3・椀1・皿4）、瓦器34（椀31・皿1・火鉢1・釜1）、磁器碗2、砥石1、木製品5（下駄2・箸2・人形首1）、土錘1、キセル1、加工骨1 計76点	授業・展示
6	大阪府立四條畷高等学校	更良岡山遺跡 雁屋遺跡	円筒埴輪3、須恵器3（短頸壺1・壺1・提瓶1） 弥生土器32（壺7・長頸壺1・無頸壺1・無頸壺蓋1・手焙り形2・高杯3・甕7・器台3・鉢3・鉢蓋1・台付鉢2・台付甕1）、黒色土器椀1、土師器壺2、須恵器7（平瓶1・無蓋高杯1・杯身2・杯蓋1・はそう1・壺1）、砥石4、石鎚5 計57点	授業・展示
7	大阪府立八尾北高等学校	萱振遺跡	弥生土器4（壺1・長頸壺1・無頸壺1・壺蓋1）、土師器壺1、須恵器5（有蓋高杯1・高杯蓋1・杯身1・杯蓋1・はそう1）、円筒埴輪1、蓋形埴輪6、勾玉4、紡錘車2、臼玉8 計31点	授業・展示
8	大阪府立茨木高等学校	新庄遺跡	弥生土器9（壺2・甕2・鉢2・蓋3）、磨製石斧5 計14点	授業・展示
9	能勢町教育委員会	上椿遺跡 尾道遺跡 九ノ坪遺跡 大里遺跡	須恵器壺1 須恵器4（杯身1・杯蓋2・円面硯1）、土師器高杯1 黒色土器椀2、土師器小皿3 弥生土器8（壺1・甕3・無頸壺1・鉢1・蓋1・高杯1）、土師器7（壺1・甕3・器台1・杯2）、須恵器5（杯2・甕3）、石庖丁4、石斧3、石錘1、石鎚7 計46点	能勢町歴史資料室（能勢町ふるさと会館内） 常設展示
10	豊能町教育委員会	余野城跡	瓦器19（椀7・破片12）、土師器8（皿4・皿破片2・小皿破片2）、中世陶器破片2、備前焼擂鉢3、丹波焼甕破片1、羽釜破片1、砥石1 計35点	豊能町立郷土資料館 常設展示
11	吹田市立博物館	吉志部瓦窯	軒丸瓦1、平瓦1、綠釉陶器片2、綠釉瓦片6、窯道具6 計16点	常設展示（「桓武朝平安宮瓦窯」）
12	藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小型修羅1※ 計1点	図書館展示室常設展示
13	堺市立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器33（椀27・皿6）、土師器皿1、瓦質羽釜1、鋳型片29、輪羽口18、鉄製刀子1、青銅製品2、鉄塊系遺物7、砥石7 計99点	常設展示（「河内鋳物師」）
14	太子町教育委員会	伽山古墓 伽山遺跡	銀製帶金具（レプリカ）一式 須恵器4（杯身1・高杯1・器台2）、土師器2（杯1・高杯1） 計7点	太子町立竹内街道歴史資料館常設展示（第2展示室）
15	泉大津市立池上曾根弥生学習館	池上曾根遺跡	炭化米（No.286）1ケース 計1ケース	常設展示
16	和泉市教育委員会	府中遺跡 坂本寺跡 大園遺跡 池田寺跡 信太寺跡 和泉寺跡 池上曾根遺跡	弥生土器12（高杯1・壺7・甕2・蛸壺形2） 軒丸瓦6、軒平瓦5 有舌尖頭器2、子持勾玉2、滑石製勾玉1、紡錘車1 文字瓦6、軒丸瓦8、軒平瓦1、石製巡方1 平瓦（人物画像）1、文字瓦4、軒丸瓦点1、軒平瓦1 平瓦2、軒平瓦1、軒丸瓦3 弥生土器15（甕1・水差形1・高杯3・鉢3・壺7）、木製品24（男茎<レプリカ>1・広鎌<レプリカ>1・高杯1・把手付鉢1・鉢1・斧の柄1・布巻具1・用途不明品・小型四脚付盤2・臼1・臼<レプリカ>1・杓子2・杓子<レプリカ>1・鉤3・鉤<レプリカ>1・簪5）、石製品23（鍤2・大型石庖丁2・環状石斧2・石斧9・石槍5・投弾3）、ヒスイ勾玉1点、管玉5、ガラス玉片3、イノシシの下顎骨1、鹿角1、骨製ヤス2、骨器未製品5、銅鎌2、八稜鏡1 計136点・レプリカ5点	和泉市いずみの国歴史館常設展示

17 宮崎県立西都原考古博物館	陶邑窯跡群	須恵器109 計109点	常設展示コーナー (「考古学研究所」)
18 吉志部神社	吉志部瓦窯	軒丸瓦1、軒平瓦1、綠釉瓦片2、トチン2 計6点	社務所玄関ロビーに 展示
19 交野市教育委員会	大谷窯跡	須恵器25(杯身14・杯蓋9・甕1・脚部1)、須恵器片21袋(遺 物袋)、埴輪片3 計49点(遺物袋数を含む)	交野市立教育文化会 館内歴史民俗資料展 示室常設展示
20 大阪狭山市教育委員会	池尻城跡	瓦器27(椀13・椀片6・皿8)、青磁4、土釜6、土師器11(皿 10・壺1)、須恵器11、瓦質金2、東播系鉢1、陶器甕2、備前 甕1、常滑甕3、甕2、軒丸瓦3、軒平瓦2、瓦器椀片・土師器 片7袋(遺物袋) 計82点(遺物袋数を含む)	大阪狭山市立郷土資 料館常設展示
21 箕面市教育委員会	箕面経塚	和鏡3、銅錢4、青白磁合子3(蓋1・身2)、青白磁小壺3(蓋1・ 身2)、褐釉壺1 計14点※	箕面市立郷土資料館 常設展示
22 奈良国立博物館	新堂廃寺 河内寺 百濟寺 高宮廃寺	軒丸瓦7、鶴尾片2、樋先瓦1 軒丸瓦2、軒平瓦2 軒丸瓦1 軒丸瓦1 計16点	常設展示(「仏教考古 及び歴史考古の名 品」)
23 大阪府教育センター	陶邑窯跡群	須恵器26(瓶子2・短頸壺1・長頸壺1・蛸壺1・杯身8・杯蓋5・ 平瓶1・提瓶1・高杯身1・高杯蓋1・甕1・擂鉢1・無蓋高杯1・ はそう1) 計26点	展示(別館1階)
24 高槻市教育委員会	太田茶臼山古 墳	円筒埴輪3 計3点	高槻市立今城塚古代 歴史館常設展示
25 九州国立博物館	法蓮坂遺跡	「當氏之印」1※ 計1点	常設展示(「海の道、 アジアの路」)

表6 実物資料・複製資料短期貸出

件数	申 請 者	遺 跡	資 料 内 容 ／ 点 数	目的(展示内容等)
1	大阪府教育委員会	青山2号墳 古室遺跡 土師の里遺跡	人物埴輪1 鶴形埴輪1 鶴形埴輪1 計3点	大阪府東京事務所で百 舌鳥・古市古墳群世界 文化遺産登録推進の取 組み広報
2	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡 木の本遺跡 讃良郡条里遺跡 (長保寺遺跡) 池島・福万寺遺跡	輪鋸2※、木製鞍(後輪)レプリカ1、製塙土器12、U字形板状 土製品1、移動式竈1、釜1 馬鍬1 鞍1、指揮棒1、製塙土器6 陶質土器1 計28点	夏期企画展「馬がやつ てきたころ」
3	茨木市立文化財資料館	上寺山古墳 安威遺跡 安威城跡	須恵器23 土師器8、須恵器1、砥石1 土師器6、須恵器4 計43点	文化財資料館企画展 「燃やされた墓—上寺山 古墳里帰り展—」、コー ナ一展示「古墳時代の 安威川流域」
4	大阪府立近つ飛鳥博物館	西小山古墳 宇度墓古墳外堤 蔀屋北遺跡 藤の森古墳	円筒埴輪2、蓋形埴輪1 円筒埴輪2 須恵器7、土師器4、百濟系土器1、移動式竈1、韓式系土器 1、馬齒2、双孔円板2、滑石製臼玉19 勾玉2、骨製品2、ガラス玉4(連)、鉄釘5、鎧2、鉄鎌8、轡1、 円筒埴輪5、朝顔形埴輪5、形象埴輪6 計82点	秋季特別展「ワカタケ ル大王の時代」
5	静岡市立登呂博物館	西浦橋遺跡	木製腰掛1 計1点	特別展「登呂の椅子展」
6	徳島市立考古資料館	池島・福万寺遺跡	人形土製品1 計1点	特別企画展「FACE」
7	四條畷市立歴史民俗資料 館	蔀屋北遺跡	乳歯のある馬歯1 計1点	特別展「馬のいななき と王の光」
8	大阪府立近つ飛鳥博物館	上寺山古墳 狭山藩陣屋跡 大坂城三の丸跡	須恵器9、土師器1、鉄鎌4、刀子2 三つ鱗文鳥食1、三つ鱗文軒丸瓦1、雁振瓦1、刻印瓦4 金箔瓦10、ものさし4、京杓1、太鼓形分銅1 計39点	冬季特別展「歴史発掘 おおさか2015」
9	個人	国府遺跡	第3地点石器25、第6地点石器3 計28点	産地同定分析(蛍光X線 回折)

表7 資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

件数	依頼者	撮影 掲載 貸出	種類	遺跡	資料内容／点数	目的／掲載誌
1	公益財団法人大阪産業振興機構	掲載	写真・図面	大坂城惣構・西町奉行所跡	後期大坂西町奉行所1 豊臣と徳川時代の大坂城外郭の比較図1・調査地の変遷図1・府立大阪博物館案内図(明治36年)1 計4点	公益財団法人大阪産業振興機構のWEBサイト
2	株式会社クリエイティブネクサス	貸出・掲載	写真	三ツ塚古墳	修羅出土状況1 計1点	テレビ番組
3	個人	撮影・掲載	写真	大園遺跡	埴仏1 計1点	『河内古文化研究論集』第二集
4	株式会社小学館	撮影・掲載	写真	雁屋遺跡	台付細頸壺1 計1点	『日本美術創世記』(「日本美術全集」第一巻)
5	個人	撮影・掲載	写真	蔀屋北遺跡	移動式竈1 計1点	『韓式系土器研究』XIV
6	個人	掲載	実測図・拓本	西小山古墳	蓋形埴輪1 計1点	『埴輪研究会誌』19
7	大阪府立近づ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真	蔀屋北遺跡	輪鏡1 計1点	夏期企画展「馬がやってきたころ」
8	戎光祥出版株式会社	貸出・掲載	写真	高屋城跡	第15調査区櫓台1 計1点	『大阪の中世城館』
9	戎光祥出版株式会社	掲載	図面	東高野街道	調査対象古道概略図1 計1点	『飯盛山城と三好長慶』
10	(株)新泉社	貸出・掲載	写真	蔀屋北遺跡	埋葬された馬の全身骨格1 計1点	『<十二支の>動物たちの考古学』
11	京都府立丹後郷土資料館	掲載	写真	蔀屋北遺跡	船材1 計1点	企画展「波濤を越えて船は往く」
12	大阪府立近づ飛鳥博物館	掲載	図面	上寺山古墳	埋葬施設実測図1 計1点	近づ飛鳥ギャラリー
13	株式会社ベストセラーズ	掲載	写真	大坂城跡	京橋(太閤検地柵)1 計1点	『歴史人』9月号(「石田三成の眞実」)
14	大阪府立近づ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真	蔀屋北遺跡	縫穴住居(F935・1134)1 木の本遺跡 讃良郡条里(長保寺)遺跡 縫穴住居 木の本遺跡 縫穴住居 計12点	夏期企画展「馬がやってきたころ」
15	茨木市立文化財資料館	掲載	写真	上寺山古墳	調査記録写真36 計36点	文化財資料館企画展「燃やされた墓ー上寺山古墳里帰り展ー」
16	株式会社吉川弘文館	貸出・掲載	写真	蔀屋北遺跡	馬埋葬土坑1 計1点	『古墳時代の生産と流通』
17	茨木市立文化財資料館	掲載	図面	上寺山古墳	調査図面2 計2点	文化財資料館企画展「燃やされた墓ー上寺山古墳里帰り展ー」
18	大阪府立近づ飛鳥博物館	貸出・掲載	写真	西小山古墳 蔀屋北遺跡 藤の森遺跡	古墳全景1 遺跡遠景1、1135出土遺物1、鳥足文タタキ1 円筒埴輪底部1、蓋形埴輪2 馬具1、釘と鎌1、鉄鎌1、勾玉2、骨製品1、ガラス丸玉1、石室2 計16点	秋季特別展「ワカタケル大王の時代」
19	和歌山県立紀伊風土記の丘	貸出・掲載 掲載	写真 図	志紀遺跡	杭110の変位写真1 第7面木杭平面・立面図1 計2点	特別展「紀伊の地、大いに震う」
20	四條畷市立歴史民俗資料館	貸出・掲載 掲載	写真	蔀屋北遺跡	井戸枠出土状況2 輪鏡出土状況1、乳歯のある馬歯1、馬埋葬土坑1、鎌轡1、後輪出土状況1、U字形土製品2 計8点	特別展「馬のいななきと王の光」

21	(株)新泉社	貸出・掲載	写真	二本木山古墳	割竹形石棺検出状況1 計1点	『和泉黄金塚古墳と銅鏡』(森浩一著作集第2巻)
22	高崎市観音塚考古資料館	貸出・掲載	写真	三ツ塚古墳	修羅出土状況1 計1点	企画展「巨石の来た道」
23	静岡市立登呂博物館	掲載	写真	西浦橋遺跡	木製腰掛1 計1点	特別展「登呂の椅子展」
24	大阪府立近つ飛鳥博物館	掲載	写真	蔀屋北遺跡	馬具類1 計1点	夏期企画展「馬がやってきたころ」
25	枚方市教育委員会	掲載	写真	百濟寺跡	昭和7年度調査2、昭和40年度調査3 計5点	文化財展示会「百濟寺跡とその周辺遺跡」
26	個人	貸出	写真図	長曾根遺跡	「中津家」墨書き土器(表裏)2 「中津家」墨書き土器1 計3点	論文作成
27	株式会社小学館	貸出・掲載	写真	四ツ池遺跡	木製高杯1 計1点	『日本美術創世記』(「日本美術全集」第一巻)
28	茨木市	掲載	写真	上寺山古墳	調査時風景1 計1点	広報いばらき12月号「文化財めぐり」
29	(株)新泉社	貸出・掲載 掲載	写真図	盾塚古墳 鞍塚古墳 土師の里遺跡 応神陵古墳 盾塚古墳 鞍塚古墳	1992年度調査区1、1995年度調査区1、造出埴輪列出土状況1 調査区全景1 圓形埴輪4 応神陵古墳埴輪1 埴輪図2、墳形復元図1 埴輪図2、墳形復元図1 計15点	『盾塚、鞍塚、珠金塚古墳』
30	ランドフレイン株式会社	掲載	写真	三ツ塚古墳	小修羅1 計1点	藤井寺市観光パンフレット「ふかーく楽しむ藤井寺」
31	大東市教育委員会	掲載	写真	堂山古墳群	1号墳1、1~7号墳1、1号墳副棺1、鉄製武器・武具・農工具出土状況1、3号墳四注式陶棺1 計5点	プロジェクトマッピング(大東一大歴史絵巻)
32	個人	掲載	図・拓本	河内国分寺	軒平瓦4、軒丸瓦3 計7点	木津川市ふれあい文化講座「山背国分寺について」講演資料
33	藤井寺市教育委員会	掲載	写真	古市古墳群	津堂城山古墳長持形石棺1、仲哀天皇陵古墳からの遠望1、鉢塚古墳と仲哀天皇陵古墳の遠望1 計3点	『仲哀天皇陵古墳』
34	株式会社創元社	掲載	写真	北玉山古墳	振文鏡1 計1点	『古市古墳群をあるく』
35	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出・掲載	図面写真	上寺山古墳 上寺山古墳 狭山藩陣屋跡 大坂城跡	遺構平面図1 埋葬施設床面全景2 2区3面全景1、瓦横検出状況1、刻印瓦1、三つ鱗文軒丸瓦1 大坂城城下町跡1、三の丸北側石垣1、京枀2、金箔瓦1、太鼓形分銅1 計13点	冬季特別展「歴史発掘おおか2015」
36	奈良国立博物館	貸出・掲載	写真	陶邑窯跡群	移築された楕61号の復元窯1 計1点	国立慶州博物館(韓国)「日本の古墳文化」展
37	羽曳野市	掲載	写真	津堂城山古墳	石室と長持形石棺1、石棺発見当時に於ける故坪井博士の調査1 計2点	「古市古墳群解説映像」(仮題)
38	四條畷市教育委員会	貸出・掲載	写真	蔀屋北遺跡 正法寺遺跡 蔀屋北遺跡	k1調査区第12面全景1 墨書き土器1 輪鏡出土状況1、乳歯のある馬歯1、B131000井戸枠1、調査風景1、後輪出土状況1、馬埋葬土坑1、E090805井戸検出状況1、B131000井戸検出状況1、U字形土製品1、移動式竈1、製塩土器出土状況1、遺跡周辺航空写真1、E090805井戸枠検出状況1、E090805井戸検出状況1、豎穴住居(弥生)1、弥生土器1、石庖丁1 計19点	『四條畷市史 第五巻 考古編』
39	テレコムスタッフ株式会社	貸出・掲載	写真	大坂城跡	太閣検地枠1 計1点	BS-TBS番組「THE 歴史列伝 第88回 石田三成」
40	個人	掲載	写真	鳥坂寺跡	笠書き平瓦1 計1点	『日本古代の寺院と社会』

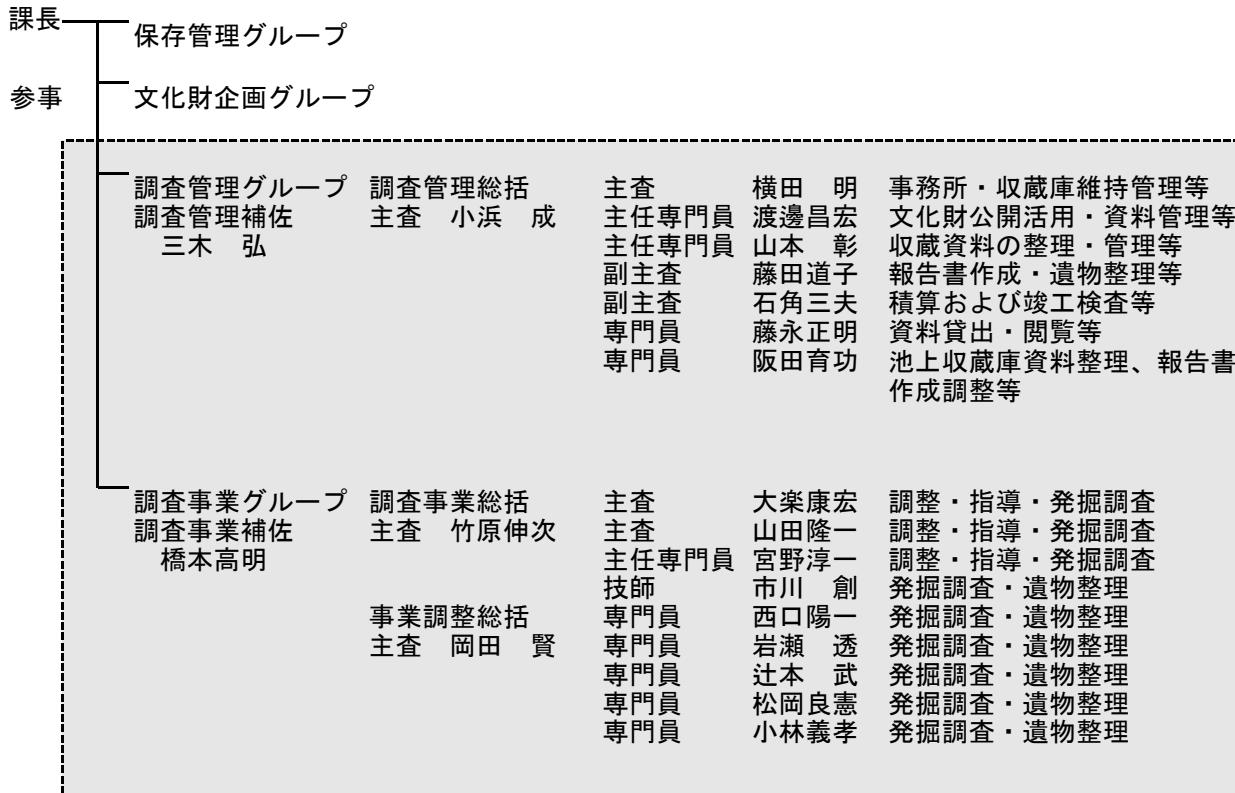
41	大阪歴史博物館	撮影 写真	部屋北遺跡 安威遺跡 岸之本南遺跡	甑・移動式竈集合1、甑集合1、鳥足文夕 夕キ陶質土器集合1、格子タタキ布留甕1 甑・甕集合2 甑・壺・当具集合1、甑1 計8点	平成29年度予定特別展用
42	八尾市史編纂室	貸出 写真	中ノ谷古墳	人物写真1、調査地遠景1、出土玉類(1)1、 出土玉類(2)1、出土櫛・刀1、石棺内状況1、 刀写真1、石棺蓋石1、調査地遠景1、石 棺内状況1、調査地より河内平野風景1、 石棺内状況1、石棺蓋石1 計13点	『新版八尾市史考古資料編』準備
43	藤井寺市	掲載 写真	津堂城山古墳 墓山古墳	長持形石棺1 人物埴輪1 計2点	現地説明板
44	株式会社140B	複写・図 掲載	府立大阪博物館	案内図(明治36年)1 計1点	『天王寺動物園100周年記念誌』
45	飯塚市史編さん委員会	掲載 写真	はさみ山遺跡	住居跡1 計1点	『飯塚市史』
46	堺市博物館	掲載 写真	檜尾塚原古墳群	航空写真1、9号墳第3主体玄室奥部1、第 3主体全景1 計3点	常設展示期間パネル
47	株式会社フォト・オリジナル	掲載 写真	陶邑窯跡群	須恵器甕1 計1点	「中学WinPass歴史」デジタル版
48	大阪府立弥生文化博物館	貸出・掲載 写真	堂山1号墳	全景1、副棺(南から)1、副棺(東から)1 計3点	春季特別展「鉄の弥生時代」
49	大阪府立近づき飛鳥博物館	貸出・掲載 写真	堂山1号墳	全景1、南西裾埴輪・須恵器検出状況1 計2点	春季特別展「古墳とは何か」
50	個人	掲載 写真・図	シシヨツカ古墳	円頭大刀4(柄頭2、鞘尻2)、鞍金具3、大 刀6(鋸3、鞘口3) 計13点	『元興寺文化財研究所研究報告 2015』
51	大東市教育委員会	掲載 写真	堂山1号墳	1号墳全景1	『大東市ガイドブック～大都市よりも大東市～』
52	茨木市立文化財資料館	貸出・掲載 写真	総持寺遺跡	「調」刻書土器1	文化財資料館企画展「発掘された文字」

表8 資料閲覧

件数	申 請 者 (所 属)	遺 跡	資 料 内 容	保 管 場 所	目 的
1	個人（奈良大学大学院）	上寺山古墳	鉄劍・刀・鎌・斧	文化財調査事務所	学術研究
2	柏原市立歴史資料館	難波宮跡	木簡	文化財調査事務所	学術研究
3	個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
4	静岡市立登呂博物館	西浦橋遺跡	椅子	文化財調査事務所	展示
5	滋賀県立安土城考古博物館	蔀屋北遺跡	船材	和泉池上収蔵庫	教育
6	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡 木の本遺跡 長保寺遺跡	馬具、製塩土器、竈、土師器 馬鋤 威儀具、製塩土器	文化財調査事務所	学術研究
7	上寺山古墳研究会	上寺山古墳	鉄器	文化財調査事務所	学術研究
8	個人（大阪大学大学院）	応神陵古墳外堤	埴輪	文化財調査事務所	学術研究
9	個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
10	個人（大阪大学大学院）	堂山1号墳 伏尾遺跡（41-06号墳） 萱振1号墳 ツゲノ遺跡 土師の里遺跡	埴輪 埴輪 埴輪 埴輪 埴輪	文化財調査事務所	学術研究
11	個人（島根大学）	国府遺跡 北玉山古墳 牛石7号墳 馬子塚古墳	巴形銅器 鏡 鏡 鏡	文化財調査事務所	学術研究
12	徳島市立考古資料館	池島・福万寺遺跡	人形土製品	文化財調査事務所	展示
13	個人	蔀屋北遺跡 讃良郡条里遺跡 はざみ山遺跡	船材 船材 船材	和泉池上収蔵庫	学術研究
14	個人（奈良大学）	陶邑窯跡群	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
15	大阪歴史博物館	蔀屋北遺跡 安威遺跡 西小山古墳 宇度墓古墳	土器 土器 土器 埴輪	文化財調査事務所	展示
16	茨木市立文化財資料館	上寺山古墳 安威遺跡 安威城遺跡	土器 土器 土器	文化財調査事務所	展示
17	個人（大阪文化財研究所）	勝山南遺跡	土器、瓦	泉北収蔵庫	学術研究
18	大阪府立近つ飛鳥博物館	西小山古墳 宇度墓古墳 藤の森古墳 蔀屋北古墳	埴輪 埴輪 埴輪 須恵器	文化財調査事務所	展示
19	個人（奈良大学）	陶邑窯跡群	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
20	個人（大阪大学大学院）	青山2号墳 鞍塚古墳	埴輪 埴輪	文化財調査事務所	学術研究
21	個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
22	個人（名古屋大学大学院）	河内国分寺跡	瓦	文化財調査事務所 東大阪収蔵庫	学術研究
23	個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
24	個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
25	個人（奈良大学）	陶邑窯跡群	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
26	個人（交野市教育委員会）	上寺山古墳	鉄器	文化財調査事務所	学術研究
27	個人（大阪大学大学院）	青山2号墳	埴輪	文化財調査事務所	学術研究
28	個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
29	四條畷市教育委員会	蔀屋北遺跡	馬齒	文化財調査事務所	展示
30	個人（奈良大学）	陶邑窯跡群	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究

31 個人（奈良県立橿原考古学研究所他）	国府遺跡	旧石器	文化財調査事務所	学術研究
32 個人（奈良大学）	陶邑窯跡群	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
33 個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
34 個人（交野市役所）	大県遺跡	鍛冶関連資料	文化財調査事務所	学術研究
35 個人（大阪大学大学院）	青山1・2号墳 心神陵古墳外堤	埴輪 埴輪	文化財調査事務所	学術研究
36 個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
37 個人（奈良大学）	陶邑窯跡群	須恵器	東大阪収蔵庫	学術研究
38 個人（奈良文化財研究所）	牛石7号墳 西山2号墳	馬具 馬具	文化財調査事務所	学術研究
39 個人（大阪大学大学院）	青山1・2・4号墳	埴輪	文化財調査事務所	学術研究
40 大阪歴史博物館	蔀屋北遺跡	竈、土師器、須恵器	文化財調査事務所	展示
41 朝日町町史編さん課	大阪博物場旧蔵品	陶磁器	文化財調査事務所	学術研究
42 個人（大阪大学大学院）	青山1・2・4号墳 誉田白鳥遺跡（古市南部窯跡群）	埴輪 埴輪	文化財調査事務所	学術研究
43 大阪府立近つ飛鳥博物館	大坂城跡 狭山藩陣屋跡	金箔瓦、ものさし、京构、分銅瓦	文化財調査事務所	展示
44 大阪府立近つ飛鳥博物館	上寺山古墳	須恵器	文化財調査事務所	展示
45 個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
46 大阪府立近つ飛鳥博物館	堂山1号墳	土師器、須恵器	文化財調査事務所	展示
47 個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
48 個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
49 個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
50 個人	国府遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
51 個人	国府遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
52 個人（大阪文化財研究所）	難波宮跡	土師器、須恵器	文化財調査事務所	学術研究
53 個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
54 個人（八尾市教育委員会）	中ノ谷古墳	写真	文化財調査事務所	学術研究
55 個人（御所市教育委員会）	大園遺跡	埴輪	和泉池上収蔵庫	学術研究
56 大阪歴史博物館	蔀屋北遺跡 岸之本南遺跡	須恵器、下駄 須恵器	文化財調査事務所	展示
57 個人（奈良県立橿原考古学研究所他）	八尾南遺跡	旧石器	文化財調査事務所	学術研究
58 個人（奈良県立橿原考古学研究所）	西小山古墳 陶邑窯跡群	須恵器 須恵器	文化財調査事務所 和泉池上収蔵庫	学術研究
59 国立歴史民俗博物館	蔀屋北遺跡 陶邑窯跡群	竈、土師器 須恵器	文化財調査事務所	学術研究
60 個人（千葉大学）	蔀屋北遺跡 小島東遺跡	鹿角製刀剣装具 鹿角製刀剣装具	文化財調査事務所	学術研究

平成28年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図



【文化財調査事務所】

TEL 072 (291) 7401

大阪府教育庁文化財調査事務所年報20
発行日 2016年11月30日
発 行 大阪府教育委員会
〒540-8571
大阪市中央区大手前二丁目
TEL06-6941-0351（代表）
編 集 大阪府教育庁 文化財調査事務所
〒590-0105
堺市南区竹城台三丁21-4
TEL072-291-7401
印 刷 株式会社 近畿印刷センター
〒582-0001
柏原市本郷五丁目 6番25号
TEL072-972-5918